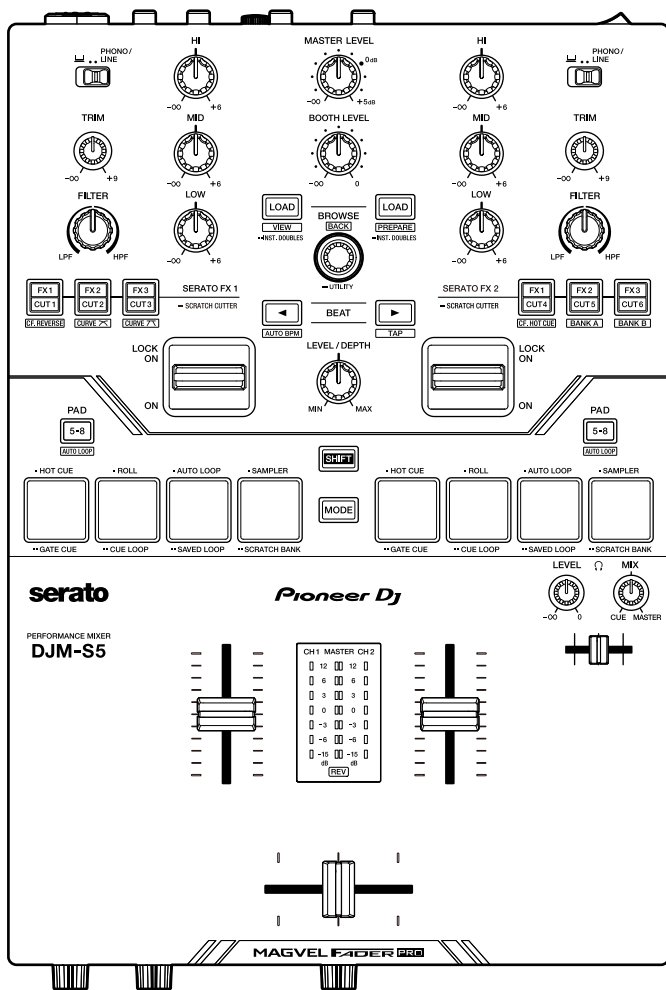




DJミキサー

DJM-S5

pioneerdj.com/support/

serato.com

上記のサイトで、本製品の最新のソフトウェア情報やFAQなどのサポート情報をご覧ください。

もくじ

はじめに	5
本書の見かた	5
付属品を確認する	5
マニュアルを閲覧する	5
DJ ソフトウェアについて	6
Serato DJ Pro	6
各部の名称	7
コントロールパネル	7
本体フロント部	8
本体リア部	9
PC / Mac の準備	11
設定ユーティリティを使う	13
接続	21
入力端子に接続する	22
出力端子に接続する	23
DVS	24
接続	24
Serato DJ Pro の設定	27
再生	29
Browse セクション	29
楽曲をライブラリに追加する	30
トラックをデッキにロードする	30
トラックを再生する	31
音声出力	32
チャンネルセクション / Master セクション	32
音声を出力する	34

チャンネル音声の音質を調整する	35
クロスフェーダーを設定する	35
音声モニター	36
ヘッドホンセクション	36
ヘッドホンで音声モニターする	36
Booth セクション	37
ブースモニターを使う	37
マイク	38
MIC セクション	38
マイクを使う	38
AUX	39
AUX セクション	39
AUX を使う	39
Filter	40
Filter セクション	40
Filter を使う	40
ソフトウェア FX	41
FX セクション	41
ソフトウェア FX を使用する	43
FX/CUT ボタンの機能切替え	44
SCRATCH CUTTER	45
SCRATCH CUTTER を使う	45
Loop	46
Loop セクション	46
Loop を使う	46
パフォーマンスパッドの操作	47
パフォーマンスパッドセクション	47
Serato DJ Pro	48
ユーザーモード	60

ユーザーモードを使う	60
フェーダースタート	62
フェーダースタートを使う	62
CROSSFADER HOT CUE	64
CROSSFADER HOT CUE を使う	64
設定.....	65
設定を変更する	65
設定項目一覧.....	68
スペック	77
仕様.....	77
ブロックダイアグラム	79
その他.....	81
故障かな？と思ったら	81
商標および登録商標について	81
著作権	82

はじめに

本書の見かた

- このたびは、Pioneer DJ 製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本書と、本機に付属している「クイックスタートガイド」および「使用上のご注意」を必ずお読みください。すべて、この製品の使用前にご理解いただくべき重要事項が含まれています。
- 本書では、製品本体、PC / Mac 画面に表示されるメニュー名、ボタン名および端子名などを、[] で囲んで記載しています。（例：[ファイル]、[CUE] ボタン）
- 本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様、およびハードウェアの外観と仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書で説明している手順については、OS のバージョン、ウェブブラウザの設定などにより記載の動作と異なる場合があります。
- 本書で説明しているソフトウェアの画面の言語が、実際の画面の言語と異なる場合があります。

付属品を確認する

- USB ケーブル × 1*1
- クイックスタートガイド × 1
- 使用上のご注意 × 1
- 保証書（「使用上のご注意」に記載） × 1

*1 本機には USB ケーブルが 1 本付属されています。2 本使用時には、USB 2.0 に準拠したケーブルをお使いください。

マニュアルを閲覧する

❖ Serato DJ Pro ソフトウェアマニュアル

下記サイトをご確認ください。

serato.com/dj/pro/downloads

DJソフトウェアについて

Serato DJ Pro をインストールしたPC／Macと本機を接続して、DJプレイを楽しむことができます。

Serato DJ Pro

Serato DJ Pro は、Serato Limited 社製のDJソフトウェアです。DVSに対応しています（24ページ）。

Serato DJ Pro ソフトウェアは本製品には付属されていません。下記のサイトにアクセスして、Serato DJ Pro ソフトウェアをダウンロードしてください。

serato.com/dj/pro/downloads

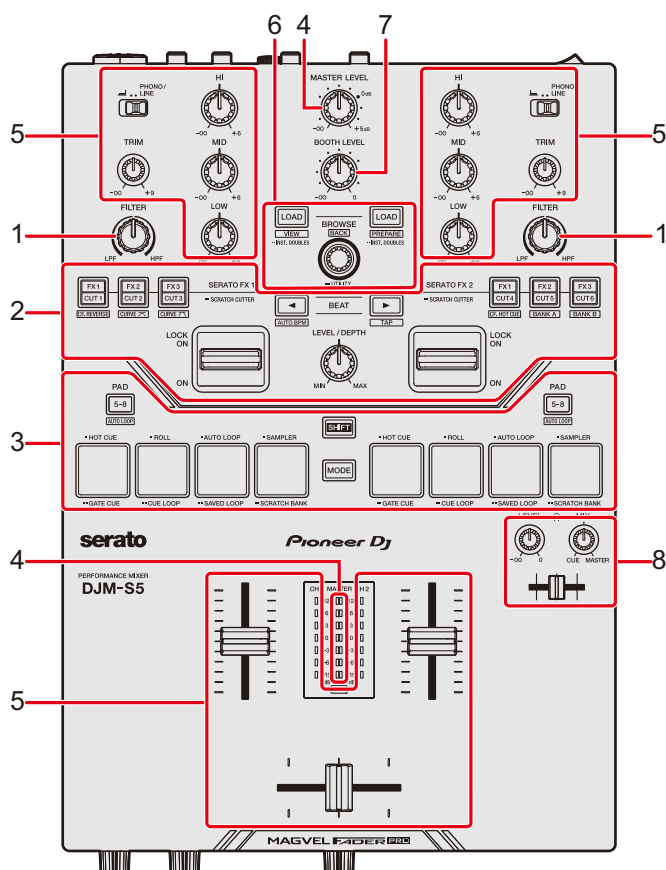
- Serato DJ Pro を起動した状態で本機と接続すると、Serato DJ Pro を無料で使用できるようになります。
- Serato DJ Pro の最新の動作環境、互換性、および対応 OS に関する情報は、下記のサイトを参照してください。

serato.com/dj/pro/downloads

- 動作環境を満たしているすべての機器における動作を保証するものではありません。
- PC／Macの省電力設定などによっては、CPU やハードディスクの処理能力を十分に発揮できないことがあります。特にノート型のPC／Macでは、AC電源を接続するなど、高パフォーマンス設定でSerato DJ Pro を使用してください。

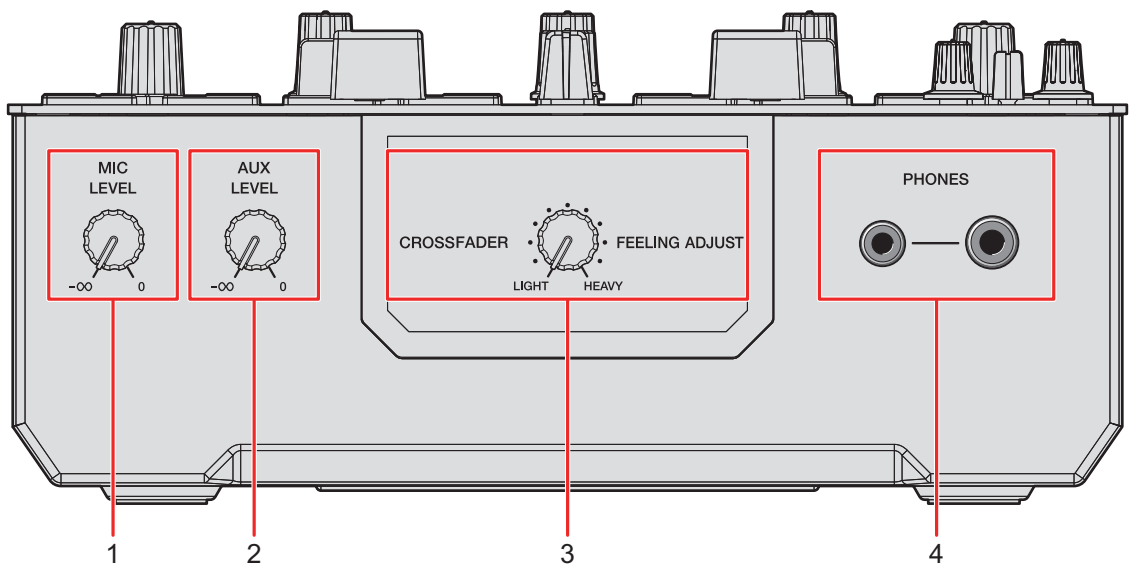
各部の名称

コントロールパネル



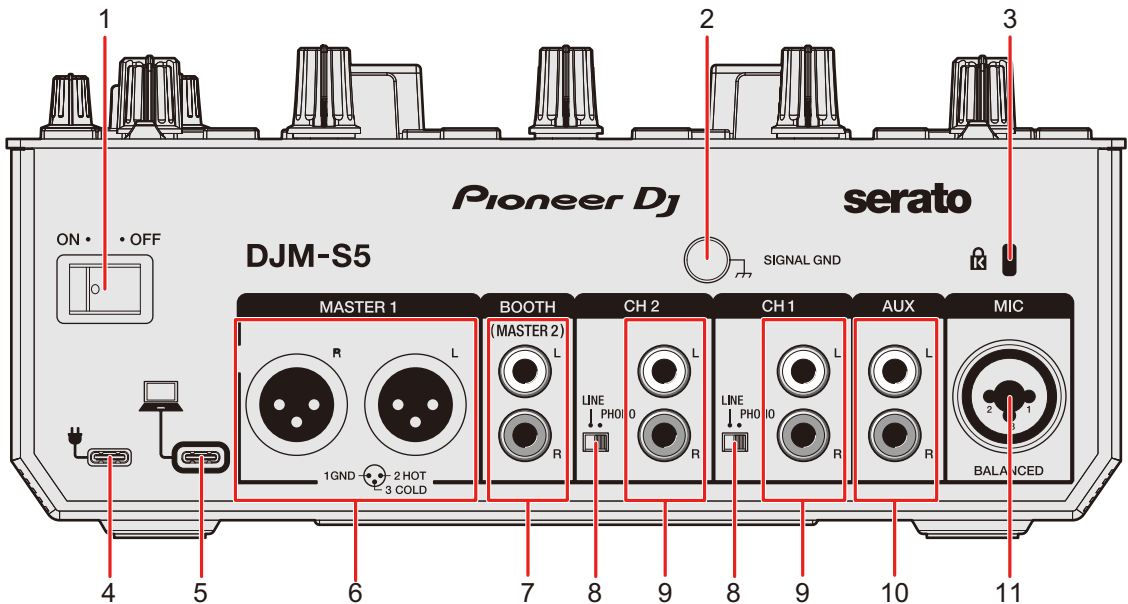
1. **Filter** セクション (40 ページ)
2. **FX** セクション (41 ページ)
3. **パフォーマンスパッド** セクション (47 ページ)
4. **Master** セクション (32 ページ)
5. **チャンネル** セクション (32 ページ)
6. **Browse** セクション (29 ページ)
7. **Booth** セクション (37 ページ)
8. **ヘッドホン** セクション (36 ページ)

本体フロント部



1. **MIC LEVEL** ノブ (38 ページ)
2. **AUX LEVEL** ノブ (39 ページ)
3. **FEELING ADJUST** ノブ (35 ページ)
4. **PHONES** 端子 (36 ページ)

本体リア部



1. ON/OFF スイッチ

本機の電源をオン／オフします。

2. SIGNAL GND 端子 (22 ページ)

ターンテーブルのアース線を接続します。ターンテーブル接続時の雑音を低減します。

3. ケンジントロック装着用穴

盗難防止用のワイヤーロックを装着します。

4. USB 端子 (電源専用)

USB ケーブルを使って、USB 電源アダプター (別売り) と接続します。

- DC 5 V / 500 mA 以上 (100 W 未満) の USB 電源アダプターをご使用ください。
- PC / Mac の USB 端子から給電することもできます。
- 本端子は電源専用端子です。PC / Mac と接続しても、給電以外は機能しません。

5. USB 端子 (PC / Mac 用) (22 ページ)

PC / Mac と接続します。本端子は Serato DJ Pro の操作および給電として使用します。

6. MASTER1 端子 (balanced XLR) (23 ページ)

パワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。

- 必ずバランス出力として使用してください。
- ほかの製品の電源コードを接続しないように注意してください。
- ファンタム電源が供給できる端子を接続しないでください。

7. **BOOTH/MASTER2 端子 (RCA)** (23 ページ)

ブースモニターまたはパワーアンプなどのアナログ入力端子と接続します。

8. **LINE / PHONO スイッチ**

- **[LINE]** : **[LINE / PHONO]** 入力端子に接続した DJ プレーヤーなどのラインレベル出力機器を使うときに使用します。
- **[PHONO]** : **[LINE / PHONO]** 入力端子に接続したアナログプレーヤーなどのフォノレベル (MM カートリッジ用) 出力機器を使うときに使用します。

9. **LINE / PHONO 入力端子**

アナログプレーヤーなどのフォノレベル (MM カートリッジ用) 出力機器または DJ プレーヤーなどのラインレベル出力機器を接続します。

接続する機器に応じて、本機背面の**[LINE / PHONO]** スイッチで入力ソースを切替えることができます。

- 本体天面の入力切替えスイッチを、**[PHONO / LINE]** に設定しておく必要があります。

10. **AUX 端子** (22 ページ)

ラインレベルの入力機器を接続します。

11. **MIC 端子 (XLR または 1/4" / 6.35 mm、TRS)** (22 ページ)

PC / Mac の準備

本機に PC / Mac の音声を入力 / 出力する場合は、お使いの PC / Mac にあらかじめ専用オーディオドライバーソフトウェア / 設定ユーティリティをインストールしてください。

PC (Windows) をお使いの場合は、専用ソフトウェアをインストールすると、専用オーディオドライバーソフトウェアおよび設定ユーティリティが同時にインストールされます。

Mac をお使いの場合は、設定ユーティリティのみインストールされます。

- 最新の動作環境、互換性、および対応 OS に関する情報は、下記の Pioneer DJ サイトを参照してください。

pioneerdj.com/support/

- 動作環境を満たしているすべての機器における動作を保証するものではありません。
- 1 台の PC / Mac に、本機を複数台接続した場合の動作は保証しません。
- 専用オーディオドライバーソフトウェアがインストールされていない PC (Windows) を本機に接続すると、環境によっては PC にエラーが発生することがあります。
- お使いの PC / Mac 上のソフトウェアとの組み合わせによっては、動作に不具合が発生することがあります。

専用ソフトウェアのインストール

❖ インストールについてのご注意

- インストールする前に、本機の電源をオフにし、本機と PC / Mac を接続している USB ケーブルを取り外してください。
- 専用ソフトウェアをインストールする前に、PC / Mac 上のすべてのアプリケーションを終了してください。
- 専用ソフトウェアをお使いの PC / Mac にインストールするには、管理者権限が必要です。
- インストールする前に、「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みください。
- インストールを途中で中止したときは、はじめからインストールをやり直してください。
- インストールが完了するまでは、本機と PC / Mac を接続しないでください。
- すべての PC / Mac 環境における動作を保証するものではありません。

専用ソフトウェアを入手する

1 下記のサイトにアクセスする

pioneerdj.com/support/

2 [ソフトウェア更新情報] をクリックする

3 [DJ ミキサー] カテゴリー内の [DJM-S5] をクリックする

4 [Drivers] をクリックする

5 [ダウンロードリンク] をクリックして、ファイルを保存する

- お使いのPC / Mac によって、PC (Windows) または Mac のいずれかの専用ソフトウェアをダウンロードしてください。

専用ソフトウェアをインストールする

1 ダウンロードした専用ソフトウェアを解凍する

2 インストールファイルをダブルクリックする

- PC (Windows) をお使いの場合は“DJM-S5_#.###.exe” を、Mac をお使いの場合は“DJM-S5_M_#.###.dmg” → “DJM-S5SettingUtility.pkg” をダブルクリックしてください (#は専用ソフトウェアのバージョン表示)。

3 「ソフトウェア使用許諾契約書」をよく読み、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意するときは、[同意する] にチェックを入れて [OK] をクリックする

- 「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意しないときは、[同意しない] (Macの場合) / [キャンセル] (Windowsの場合) をクリックして、インストールを中止してください。

4 画面の指示にしたがって、インストールする

設定ユーティリティを使う

PC / Macにインストールされている設定ユーティリティを使って、本機とPC / Macの接続の設定や確認ができます。

設定ユーティリティを表示する

❖ Mac をお使いの場合

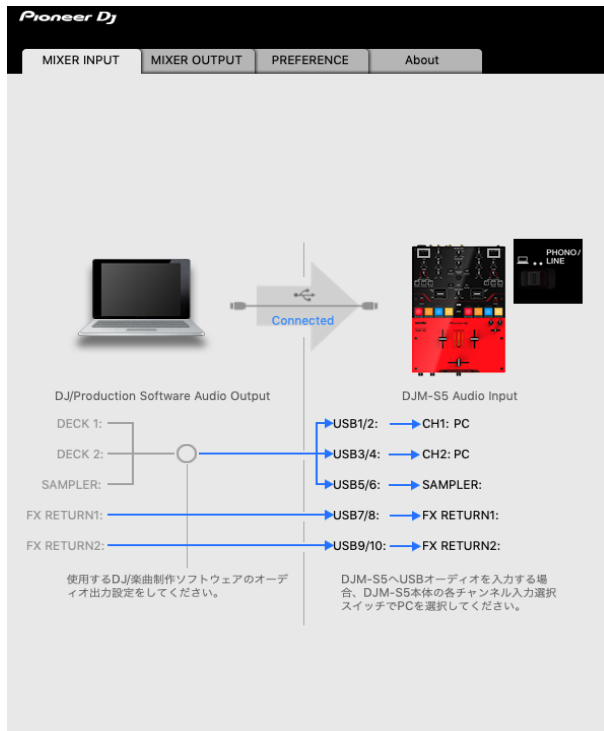
- 1 **Finder**で [アプリケーション] フォルダーを開く
- 2 [Pioneer] → [DJM-S5] → [DJM-S5設定ユーティリティ] をクリックする

❖ PC (Windows) をお使いの場合

- 1 スタートメニューから [Pioneer] → [DJM-S5設定ユーティリティ] をクリックする

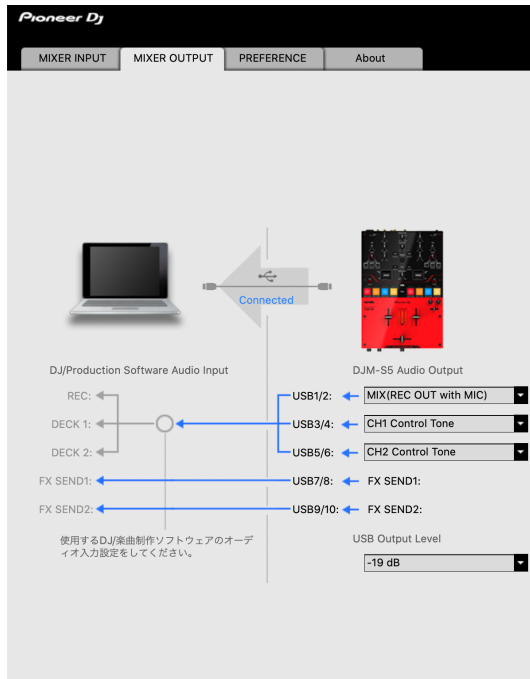
本機の入力切替えスイッチの状態を確認する

1 [MIXER INPUT] タブをクリックする



本機から PC / Mac への音声データ出力を設定する

- 1 [MIXER OUTPUT] タブをクリックする
- 2 [DJM-S5 Audio Output] のプルダウンリストをクリックし、本機から PC / Mac へ出力する音声を選択する



🔄 「Audio Outputのプルダウンリスト一覧」 (20 ページ)

- 3 [USB Output Level] のプルダウンリストをクリックし、本機から出力する音量を選択する

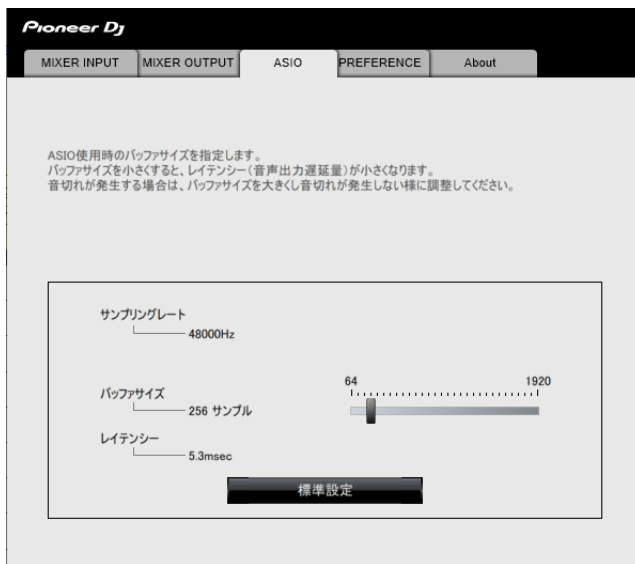
- DJソフトウェアの音量調整で十分な音量が得られないときは、[USB Output Level] で音量を調整します。音量を上げすぎると音声が歪むことがあります。ご注意ください。

バッファサイズを調整する（Windows ASIO 使用時）

- 本機を既定のオーディオデバイスとして利用しているアプリケーション（DJソフトウェアなど）が起動している場合は、終了してからバッファサイズを調整してください。

1 [ASIO] タブをクリックする

2 スライダーでバッファサイズを調整する

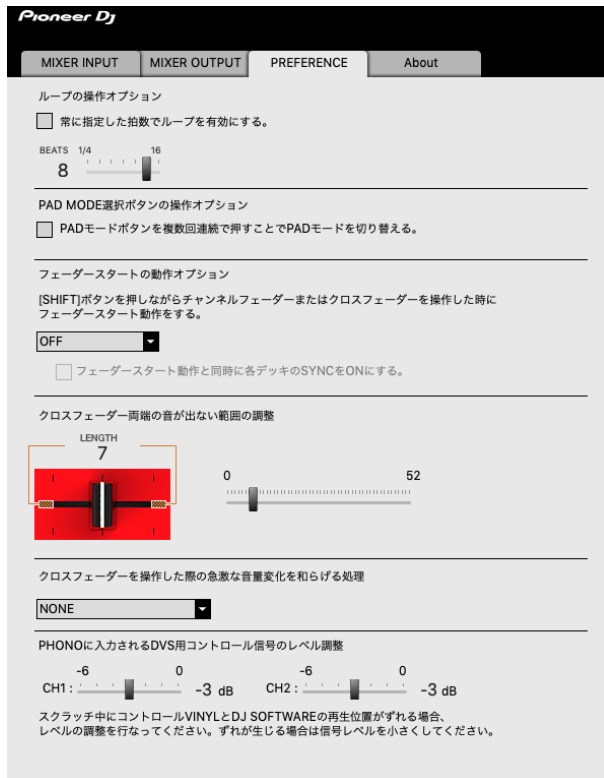


- バッファサイズを大きくすると、音声データの脱落（音とぎれ）などは発生しにくくなりますが、音声データの伝送遅延（レイテンシー）によるタイムラグが増大します。

各種設定を変更する

1 [PREFERENCE] タブをクリックする

2 各種設定を変更する



設定項目	説明
ループの操作オプション	チェックを入れると、スライダーで設定するループの長さが有効になります。 チェックを外すと、[SHIFT] ボタンを押しながら [PAD 5-8] ボタンを押したときの操作がオートビートループとして動作します。
PAD MODE 選択ボタンの操作オプション	チェックを入れると、[MODE] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを 2 回、3 回、または 4 回続けて押すことでパッドモードを切替えることができます。
フェーダースタートの動作オプション	フェーダースタート機能を有効にするには、プルダウンリストから [CUE] または [HOT CUE] を選択し、チェックボックスにチェックを入れます。 🔊 「フェーダースタートを使う」 (62 ページ)
クロスフェーダー両端の音が出ない範囲の調整	スライダーで、クロスフェーダーの両端の音声を出力しない範囲を設定します。
クロスフェーダーを操作した際の急激な音量変化を和らげる処理	音量を変化させる時間を調整して、クロスフェーダーを操作した際の急激な音量変化を緩和します。
PHONOに入力されるDVS用コントロール信号のレベル調整	スクラッチ中に Control Vinyl と DJ ソフトウェアの再生位置がずれる場合に、レベル調整を行います (ずれがある場合は、信号レベルを小さくします)。

ファームウェアと専用ソフトウェアのバージョンを確認する

1 [About] タブをクリックする



Audio Output のプルダウンリスト一覧

- USB 7/8、USB 9/10 は、[FX SEND] 固定です。

USB 1/2	USB 3/4	USB 5/6
MIX (REC OUT with MIC) ^[2]	CH1 Control Tone ^[1]	CH2 Control Tone ^[1]
MIX (REC OUT without MIC) ^[2]	MIX (REC OUT with MIC) ^[2]	MIX (REC OUT with MIC) ^[2]
CROSSFADER A ^[2]	MIX (REC OUT without MIC) ^[2]	MIX (REC OUT without MIC) ^[2]
CROSSFADER B ^[2]	Post CH1 Fader ^[2]	Post CH2 Fader ^[2]
MIC	CROSSFADER A ^[2]	CROSSFADER A ^[2]
AUX	CROSSFADER B ^[2]	CROSSFADER B ^[2]
Post CH1 Fader ^[2]	MIC	MIC
Post CH2 Fader ^[2]	AUX	AUX

- ^[1] 専用ソフトウェアで使用可能です。[USB Output Level] の設定に関係なく、本機に入力された音量のまま出力されます。
- ^[2] 録音用途以外で使用するときは、音声のループが発生しないよう DJ ソフトウェアの設定に注意してください。音声のループが発生すると、意図していない音量の音声が入出力される可能性があります。

接続

- 機器を接続する、または変更する場合は、USB ケーブルを抜いてから行ってください。
- 接続する機器の取扱説明書も参照してください。
- 本機はPC／MacのUSBポートまたはUSB電源アダプターのどちらからでも電源を取ることができます。

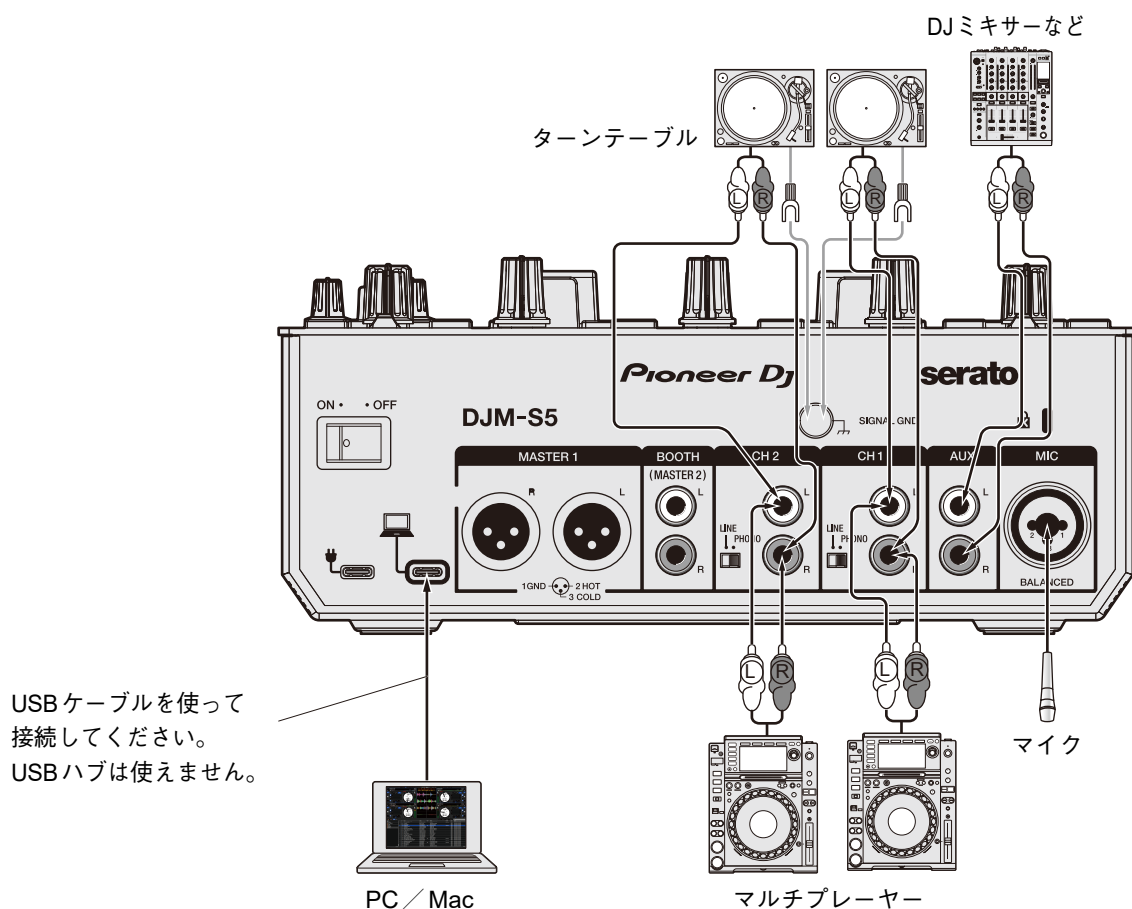
USB電源アダプターは、電源電圧がDC +5 V、電流供給能力が500 mA以上のものをお使いください（ただし100 W未満）。

- 接続するUSB ケーブルは、性能維持のため付属のケーブルを使用してください。
- USBハブは使えません。
- 以下のような場合に、USBバスパワーで動作しないことがあります。
 - － PC／Mac本体のUSB端子の電源供給能力が不足している。
 - － PC／Macに他のUSB機器を接続している。
 - － インピーダンスが32 Ω より小さいヘッドホンを接続している。
 - － ヘッドホン出力端子にモノラルジャックを接続している。

入力端子に接続する

- DVS (digital vinyl system) を使用するときは、本機の入力端子の接続および入力切替えスイッチの設定に注意してください。
DJソフトウェアの取扱説明書も参照してください。

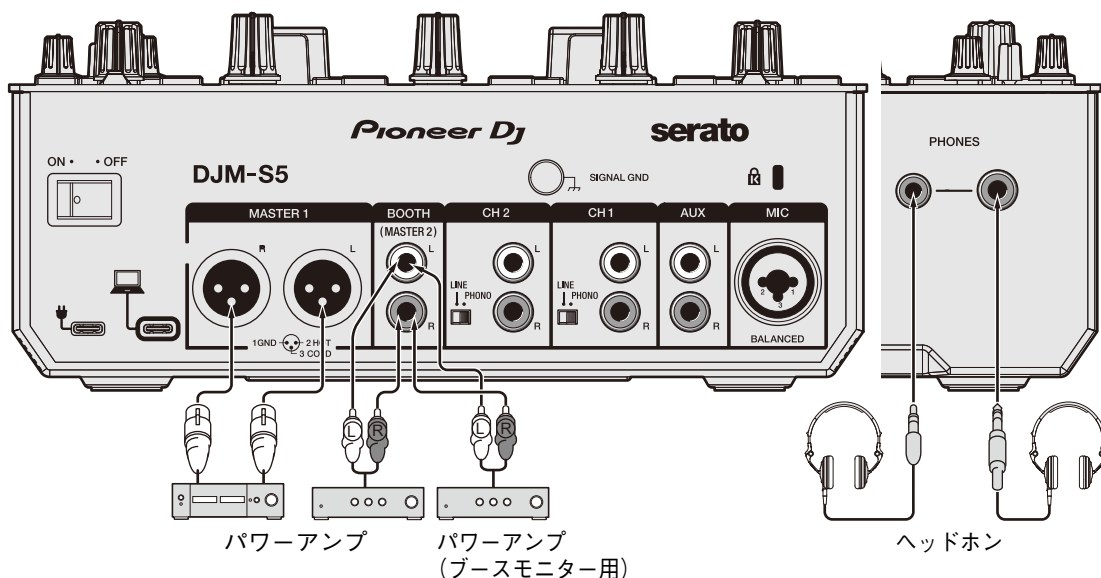
➡ 「DVS」 (24 ページ)



出力端子に接続する

本体リア部

本体フロント部



- **[MASTER1]** 端子は、必ずバランス出力として使用してください。XLR-RCA 変換ケーブル（変換アダプター）などを使ってアンバランス入力（RCA など）へ接続すると、音質が悪くなったり、ノイズが発生することがあります。
- アンバランス入力（RCA など）の接続には、**[BOOTH/MASTER2]** 端子を使用してください。
- **[MASTER1]** 端子にはほかの製品の電源コードや、ファンタム電源が供給できる端子を接続しないように注意してください。

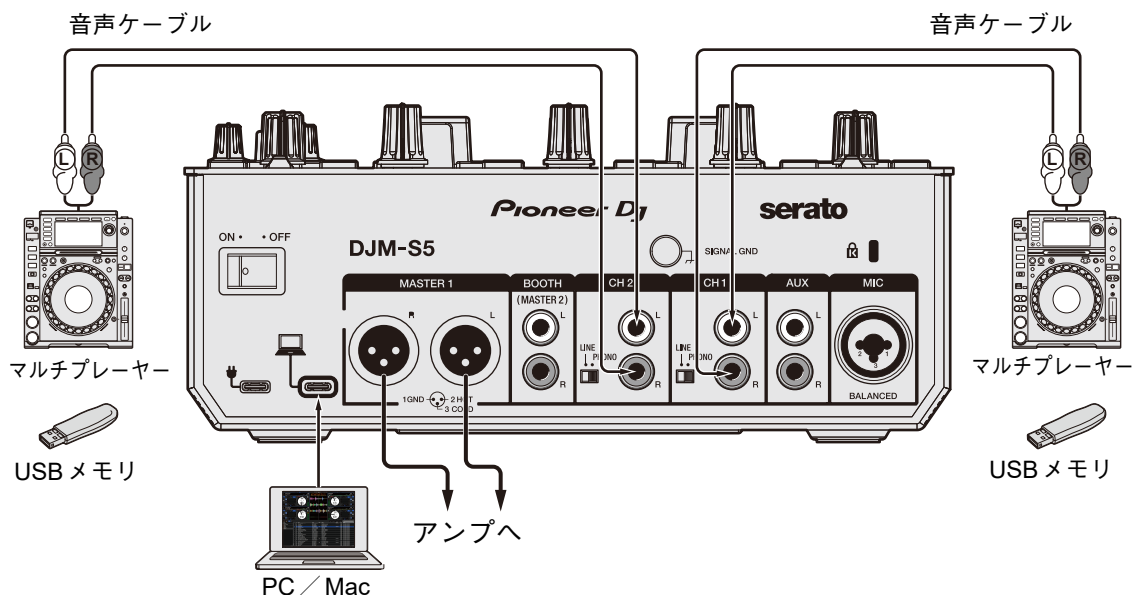
● コントロールディスクは本製品には付属されていません。別途ご購入ください。



- 1 [DECK1] をコントロールするターンテーブルと [CH1] の入力端子を、[DECK2] をコントロールするターンテーブルと [CH2] の入力端子を接続する
- 2 [LINE / PHONO] スイッチを [PHONO] に設定する
- 3 各ターンテーブルのアース線を、本機の [SIGNAL GND] 端子に接続する
- 4 ターンテーブルに **Control Vinyl** をセットする
- 5 本機の [CH1] と [CH2] の入力切替えスイッチを [] に設定する

マルチプレーヤーを使う

DJ ソフトウェアの [DECK1] と [DECK2] を、マルチプレーヤーと接続して使う場合を例に説明します。

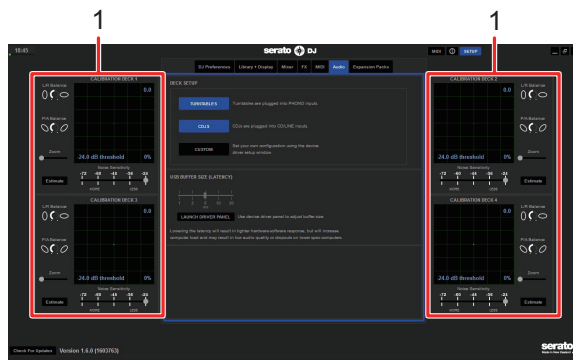


- 1 [DECK1] をコントロールするマルチプレーヤーと [CH1] の入力端子を、[DECK2] をコントロールするマルチプレーヤーと [CH2] の入力端子を接続する
- 2 [LINE / PHONO] スイッチを [LINE] に設定する
- 3 コントロール信号をコピーした **USB** メモリをマルチプレーヤーに接続し、再生する
- 4 本機の [CH1] と [CH2] の入力切替えスイッチを [] に設定する

Serato DJ Pro の設定

SETUP 画面

Serato DJ Proと本機が接続されているときのSerato DJ ProのSETUP画面は以下のような表示となります（画面は、ドライバーソフトウェア／設定ユーティリティをインストールしたあとに、PC／Macと本機を接続したときの表示です）。



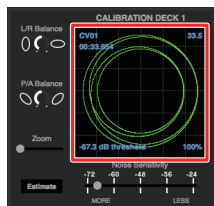
1. **CALIBRATION DECK** : Serato DJ Proは、コントロールディスクからアナログの信号を算出し、デジタルオーディオファイルの信号処理をします。使用環境ごとに、異なる信号レベルや機器の状態を算出し、コントロール信号の読み取りに最適な設定ができます。

CALIBRATION DECKが表示されていないときは、[Expansion Packs] タブをクリックし、リストから [Vinyl/CDJ Control] を選択して、[Enable Vinyl/CDJ control] にチェックを入れてください。

コントロール信号を確認する

- 1 接続したターンテーブルまたはマルチプレーヤーを操作して、トラック1を再生する

[CALIBRATION DECK] に緑の輪が表示されます。



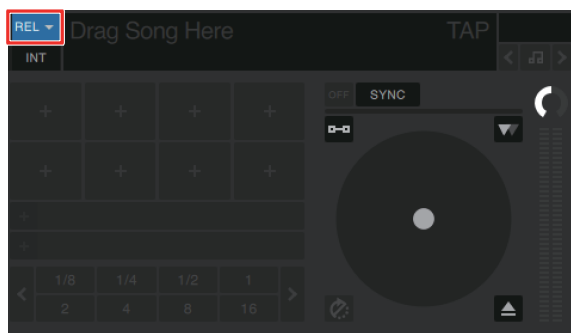
- 一番内側の輪が、正円に近い状態になっていることを確認してください。詳細については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください（5 ページ）。

再生モードを選択する

再生モードの詳細については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください(5 ページ)。

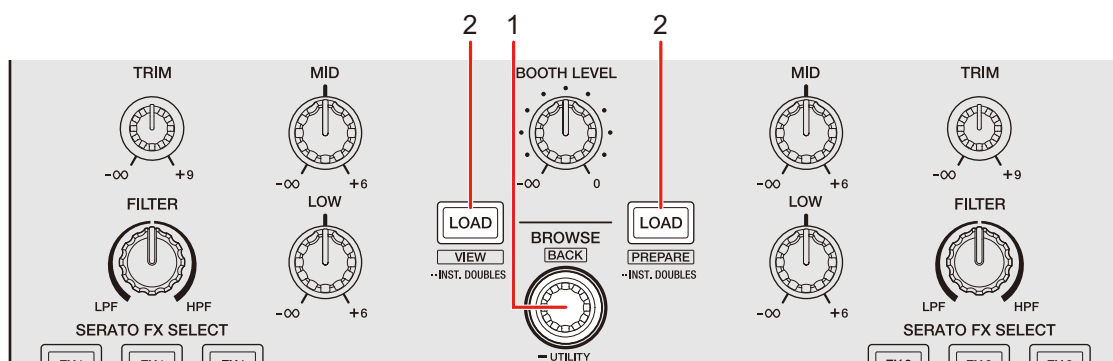
1 デッキパネルのプルダウンリストから、[ABS] または [REL] を選択する

[REL] を選んだ場合：



再生

Browse セクション



1. BROWSE ノブ

回すと、カーソルを上下に移動します。

押すと、Serato DJ Pro 画面の crates パネルとライブラリーパネル間でカーソルを移動します。[Files] パネル内ではカーソルが下位階層へ移動し、[Browse] パネル内ではカーソルが次のカテゴリへ移動します。

[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、Serato DJ Pro 画面の crates パネルとライブラリーパネル間でカーソルを移動します。

crates パネルで選択中の項目に subcrate がある場合は、subcrate を表示／非表示します。

[Files] パネル内ではカーソルが上位階層へ移動し、[Browse] パネル内ではカーソルが前のカテゴリへ移動します。

2. LOAD ボタン

選択しているトラックを本機にロードします。

2回続けて押すと、ほかのデッキにロードされているトラックを [LOAD] ボタンを押したデッキにロードします。トラックが再生中のときは、同じ位置から再生を開始します (インスタントダブルス)。

[SHIFT] ボタンを押しながら右側のボタンを押すと、[Prepare] パネルにトラックをロードします。

[SHIFT] ボタンを押しながら左側のボタンを押すと、Serato DJ Pro の画面レイアウトを切替えます。

楽曲をライブラリに追加する

Serato DJ Pro で、ライブラリに楽曲を追加します。

1 Serato DJ Pro の画面で、[Files] をクリックする

[Files] パネルに、お使いの PC / Mac や、PC / Mac に接続されている周辺機器に含まれているフォルダーやファイルが表示されます。

2 [Files] パネルで、ライブラリーに加えたい楽曲が含まれているフォルダーをクリックする

フォルダーが選択されます。

3 選択したフォルダーを、crates パネルにドラッグ & ドロップする

crate が作成され、ライブラリーに楽曲が追加されます。

トラックをデッキにロードする

1 [BROWSE] ノブを押して、Serato DJ Pro 画面の crates パネルにカーソルを移動させる

2 [BROWSE] ノブを回して、crate などを選択する

3 [BROWSE] ノブを押す

カーソルがライブラリーパネルに移動します。

- [SHIFT] ボタンを押しながら押すと、crates パネルとライブラリーパネル間でカーソルを移動することもできます。

4 [BROWSE] ノブを回して、トラックを選択する

5 [LOAD] ボタンを押す

選択しているトラックが、[LOAD] ボタンを押したデッキにロードされます。

トラックを再生する

- 1 マルチプレーヤーやターンテーブルを操作してトラックを再生する

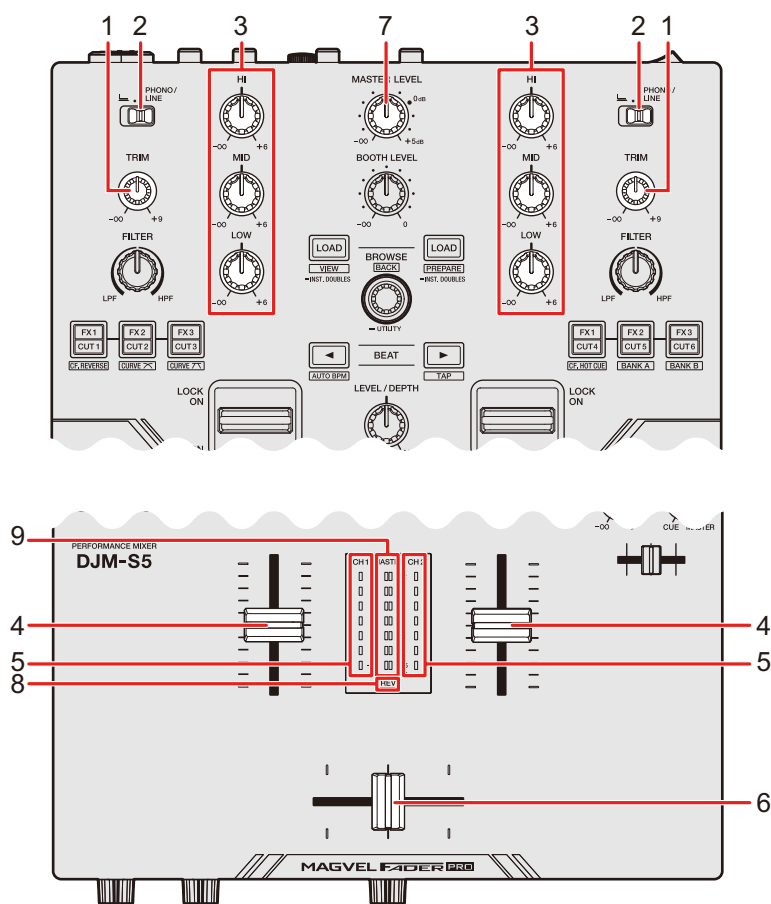
音声出力

以下の操作を行って、音声を出力します。

- －「音声を出力する」(34 ページ)
- －「チャンネル音声の音質を調整する」(35 ページ)
- －「クロスフェーダーを設定する」(35 ページ)

🔊 [BOOTH/MASTER2] 端子から音声を出力する方法については、「ブースモニターを使う」(37 ページ) を参照してください。

チャンネルセクション／Masterセクション



❖ チャンネルセクション

1. TRIM ノブ

チャンネルの入力音声の音量を調整します。

2. 入力切替えスイッチ

入力音声を選択します。

- [] : [USB] 端子に接続している PC / Mac
- [PHONO / LINE] : [LINE / PHONO] 入力端子に接続しているターンテーブルやマルチプレーヤーなど

3. HI, MID, LOW ノブ

各音域の音質を調整します。

各ノブで調整できる音域は以下のとおりです。

- [HI] : $-\infty$ dB ~ +6 dB (ISO)
- [MID] : $-\infty$ dB ~ +6 dB (ISO)
- [LOW] : $-\infty$ dB ~ +6 dB (ISO)

4. チャンネルフェーダー

[UTILITY] モードで設定されているカーブ特性 (69 ページ) にしたがって、音声を出します。奥側へスライドすると音量が上がり、手前へスライドすると音量が下がります。

[SHIFT] ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを一番手前の位置から奥側へスライドすると、チャンネルフェーダースタートを実行できます (62 ページ)。

5. チャンネルレベルインジケータ

チャンネルフェーダー通過前の音量を表示します。

6. クロスフェーダー

[UTILITY] モードで設定されているカーブ特性 (68 ページ) にしたがって、音声を出します。CH1 側へスライドすると CH1 の音声を、CH2 側へスライドすると CH2 の音声を出します。

[SHIFT] ボタンを押しながらクロスフェーダーを端から逆側へスライドすると、クロスフェーダースタートを実行できます (63 ページ)。

❖ Master セクション

7. MASTER LEVEL ノブ

マスター音声の音量を調整します。

8. REV インジケーター

クロスフェーダーリバー스가オンに設定されているとき点灯します。(44 ページ)

9. マスターレベルインジケーター

[MASTER1]、[BOOTH/MASTER2] 端子に出力するマスター音声の音量を表示します。

音声を出力する

チャンネル入力音量を調整する

1 入力切替えスイッチを切替えて、入力音声を選択する

2 [TRIM] ノブを回して、入力音声の音量を調整する

音声が入力されると、チャンネルレベルインジケーターが点灯します。

チャンネル出力音量を調整する

1 チャンネルフェーダーを動かして、出力音声の音量を調整する

2 クロスフェーダーを動かして、出力音声調整する

マスター音量を調整する

1 [MASTER LEVEL] ノブを回して、マスター音声の音量を調整する

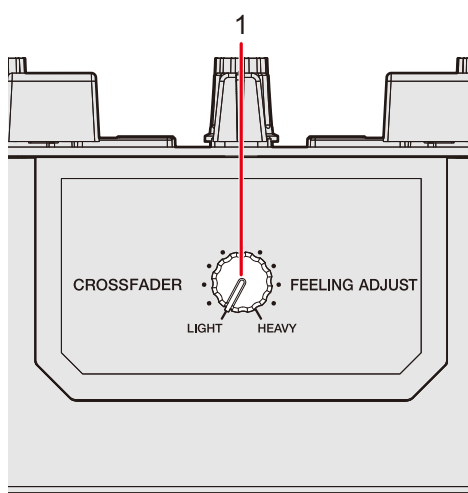
マスター音声が出力されると、マスターレベルインジケーターが点灯します。

チャンネル音声の音質を調整する

- 1 [HI]、[MID]、[LOW] ノブを回して、各音域の音質を調整する

クロスフェーダーを設定する

Crossfader セクション



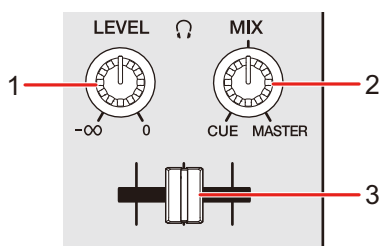
1. **FEELING ADJUST ノブ**
クロスフェーダーの負荷を調整します。

Crossfader を設定する

- 1 [FEELING ADJUST] ノブを回して、クロスフェーダーの負荷を調整する

音声モニター

ヘッドホンセクション

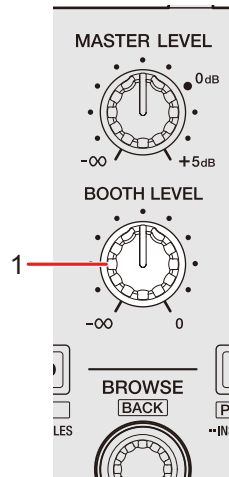


1. **LEVEL** ノブ
ヘッドホンから出力する音量を調整します。
2. **MIX** ノブ
ヘッドホンキューフェーダーで選択しているチャンネルの音声と、マスターチャンネルの音声のモニター音量バランスを調整します。
 - チャンネルの音声のみをモニターしたいときは **[CUE]** に、マスターチャンネルの音声のみをモニターしたいときは **[MASTER]** に合わせてください。
3. **ヘッドホンキューフェーダー**
ヘッドホンから出力する CH1 と CH2 の音声の割合を調整します。

ヘッドホンで音声をモニターする

- 1 **[PHONES]** 端子にヘッドホンを接続する
 「出力端子に接続する」(23 ページ)
- 2 **MIX** ノブを回して、チャンネルとマスター音声の音量バランスを調整する
- 3 ヘッドホンキューフェーダーを動かして、**CH1** と **CH2** の音声の割合を調整する
- 4 **LEVEL** ノブを回して、音量を調整する

Booth セクション



1. BOOTH LEVEL ノブ

ブースモニター音声の音量を調整します。

ブースモニターを使う

1 [BOOTH/MASTER2] 端子にブースモニター用の機器を接続する

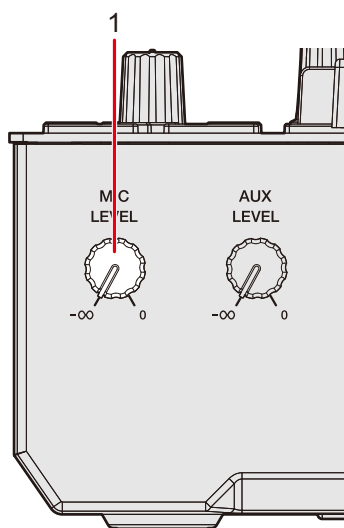
🔊 「出力端子に接続する」(23 ページ)

2 [BOOTH LEVEL] ノブを回して、出力音声の音量を調整する

- お買い上げ時、[BOOTH/MASTER2] 端子はブースモニターとして設定されています (68 ページ)。

マイク

MIC セクション



1. MIC LEVEL ノブ

【MIC】端子から入力する音量を調整します。

マイクを使う

1 【MIC】端子にマイクを接続する

☞ 「入力端子に接続する」(22 ページ)

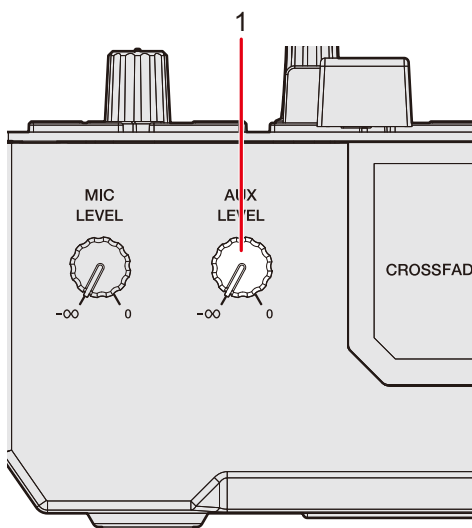
2 【MIC LEVEL】ノブを回して、マイク音声の音量を調整する

・ 右に回しすぎると、大音量で出力されます。ご注意ください。

3 マイクに音声を入力する

AUX

AUX セクション



1. AUX LEVEL ノブ

外部入力音声の音量を調整します。

AUX を使う

1 [AUX] 端子に外部入力機器を接続する

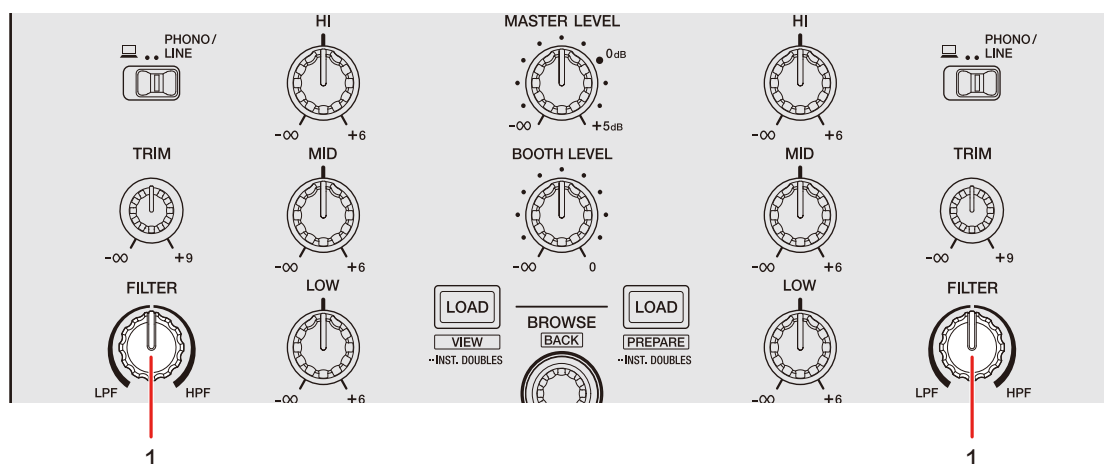
➡ 「入力端子に接続する」(22 ページ)

2 [AUX LEVEL] ノブを回して、入力音量を調整する

Filter

Filterのエフェクトを加えます。

Filter セクション



1. FILTER ノブ

Filterを調整します。

Filter を使う

フィルターを通した音声を出力します。

1 [FILTER] ノブを回して、エフェクトを調整する

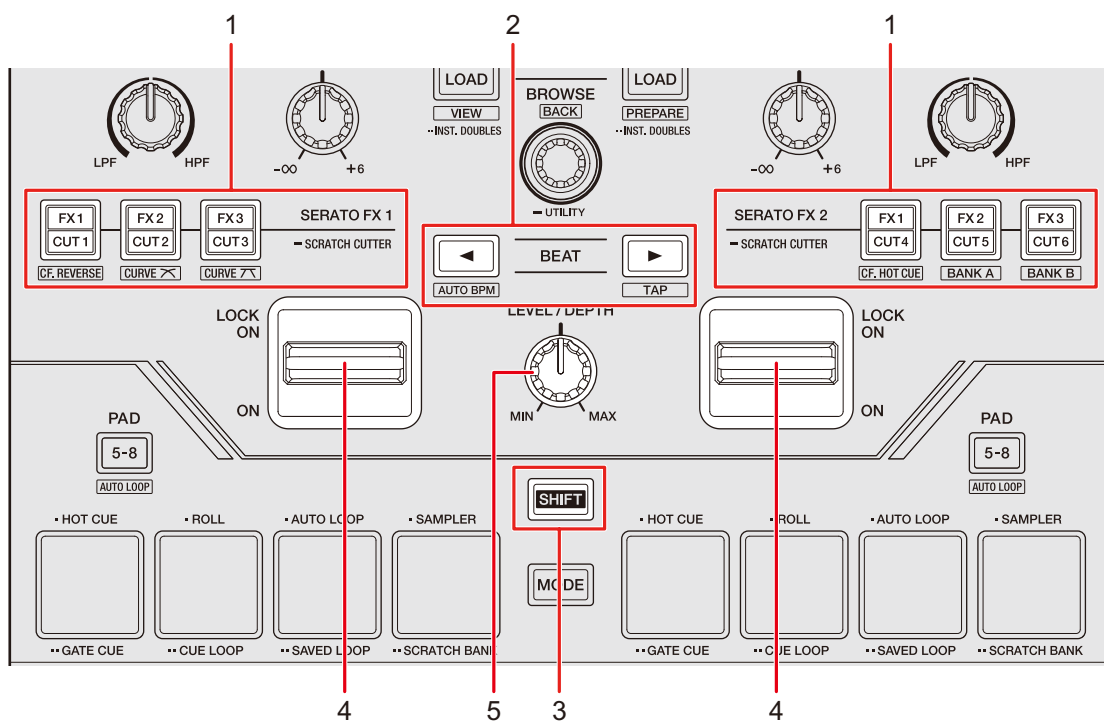
ノブを回したチャンネルの音声のエフェクトを調整します。

- 左に回すとローパスフィルターのカットオフ周波数を下げ、右に回すとハイパスフィルターのカットオフ周波数を上げます。

ソフトウェア FX

本機はエフェクト用のボタンを6個搭載しており、それぞれのボタンにお好みのDJソフトウェアのエフェクトを設定できます。

FX セクション



1. FX/CUT ボタン

DJソフトウェアのエフェクトを選択します。

2. BEAT ◀/▶ ボタン

エフェクトの拍数を設定します。

3. SHIFT ボタン

4. エフェクトレバー

エフェクトを加えます。

- **[ON]** : エフェクトレバーを **[ON]** の位置に合わせている間、エフェクトがかかります。レバーを離すと中央の位置に戻り、エフェクトがオフになります。
- **[LOCK ON]** : **[LOCK ON]** の位置に合わせている間、エフェクトがかかります。エフェクトをオフにするには、レバーを中央の位置に戻してください。

5. LEVEL/DEPTH ノブ

エフェクトを調整します。

ソフトウェアFXを使用する

- 1 使いたいエフェクトがアサインされている **[FX/CUT]** ボタンを押す
 - 複数の **[FX/CUT]** ボタンを同時に押すと、複数のソフトウェアFXを選択できます。
 - 複数のエフェクト（最大6種類）を同時に加えることができます。
 - **[FX/CUT]** ボタンに対応するエフェクトを変えることができます。詳細については、Serato DJ Pro のソフトウェアマニュアルを参照してください（5 ページ）。
- 2 **[SHIFT]** ボタンと **[BEAT ◀]** または **[BEAT ▶]** ボタンで、**BPM** を設定する
 - **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[BEAT ▶]** ボタンを押すと、手動でBPMを設定できます。
 - **[SHIFT]** ボタンを押しながら **[BEAT ◀]** ボタンを押すと、自動でBPMを取得します。
- 3 **[BEAT ◀]** または **[BEAT ▶]** ボタンを押して、エフェクトを同期させる拍数の倍率を設定する
- 4 **[LEVEL/DEPTH]** ノブを回して、エフェクトを調整する
 - 左に回しきると、原音が出力されます。
- 5 エフェクトレバーを **[ON]** または **[LOCK ON]** に合わせる
 - エフェクトレバーを操作したチャンネルの音声に、選択したエフェクトを加えます。

FX/CUT ボタンの機能切替え

[SHIFT] ボタンを押しながら [FX/CUT] ボタンを押すと、以下のように機能が切替わります。機能によって、[FX/CUT] ボタンのLED表示が変わります。

ボタン	ボタン表示	LED 表示	説明
FX1/CUT1 ボタン	CF. REVERSE	点滅： オン 暗点灯： オフ	クロスフェーダーリバー機能のオン／オフを切替えます。
FX2/CUT2 ボタン	CURVE 	点滅： オン 暗点灯： オフ	クロスフェーダーのカーブが [UTILITY] モードで設定したカーブになります。
FX3/CUT3 ボタン	CURVE 	点滅： オン 暗点灯： オフ	クロスフェーダーのカーブが急峻なカーブになります。
FX1/CUT4 ボタン	CF. HOT CUE	点滅： オン 暗点灯： オフ	クロスフェーダーホットキュー機能のオン／オフを切替えます。
FX2/CUT5 ボタン	BANK A	点滅： オン 暗点灯： オフ	Serato DJ Pro 上の Bank A を呼び出します。
FX3/CUT6 ボタン	BANK B	点滅： オン 暗点灯： オフ	Serato DJ Pro 上の Bank B を呼び出します。

SCRATCH CUTTER

SCRATCH CUTTER を使う

ターンテーブルのプلاتター操作や、マルチプレーヤーのジョグ操作時、クロスフェーダーを操作することなく、スクラッチテクニックに準じた音が出ます。

1 [FX /CUT] ボタンを長押しする (1秒以上)

SCRATCH CUTTER モードに切り替わり、押した [FX/CUT] ボタンにアサインされたカッティングパターンを選択します。

- 再び [FX/CUT] ボタンを長押しする (1秒以上) と Serato FX モードに切り替わり、押した [FX/CUT] ボタンにアサインされたエフェクトを選択します。

2 使いたいカッティングパターンがアサインされている [FX/CUT] ボタンを押す

3 [BEAT ◀] または [BEAT ▶] ボタンを押して、カッティングパターンを同期させる拍数の倍率を設定する

4 エフェクトレバーを [ON] または [LOCK ON] に合わせる

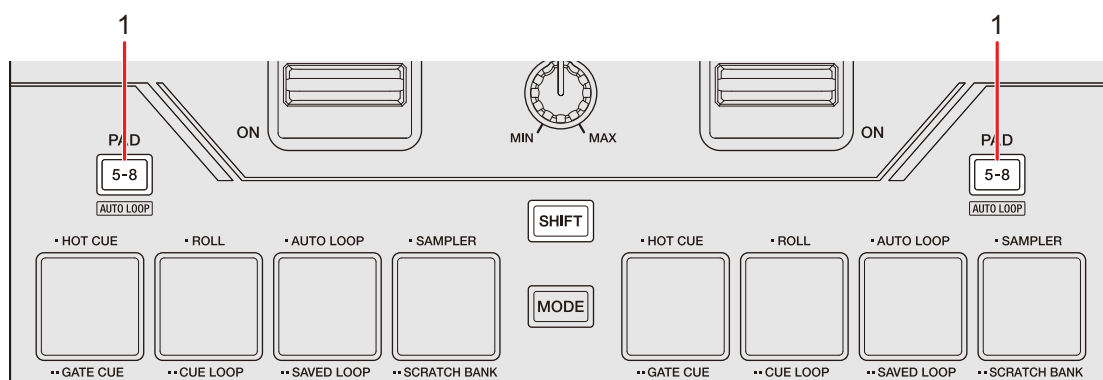
5 コントロール信号を再生する (24 ページ)

6 プラッター／ジョグを前後に動かす

Loop

指定した区間を繰り返し再生します。

Loop セクション



1. PAD 5-8 ボタン

[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、お好みの拍のループ再生またはオートビートループを実行します。

- 設定ユーティリティの [ループの操作オプション] ([PREFERENCE] タブ) で、[SHIFT] ボタンを押しながら [PAD 5-8] ボタンを押したときの動作を、お好みの拍のループとオートビートループのいずれかに設定できます (17 ページ)。

Loop を使う

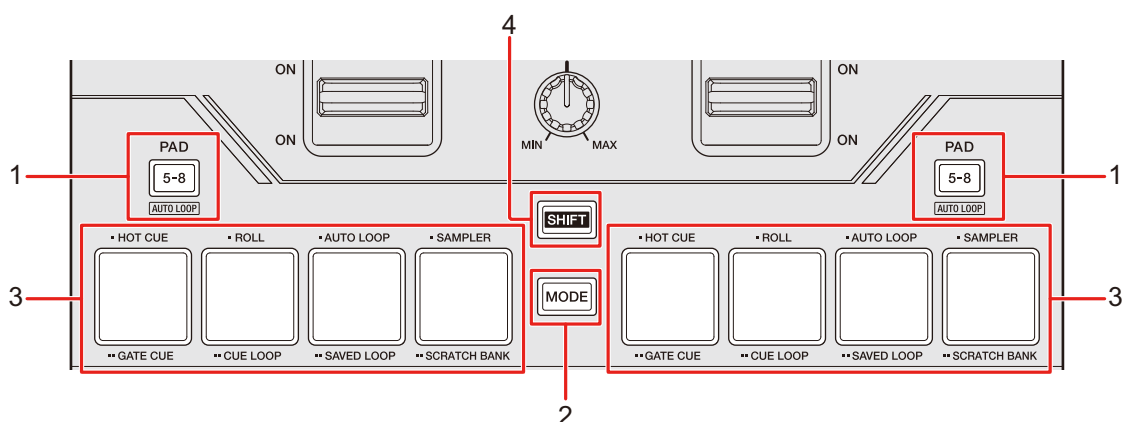
Loop を自動設定する

- 再生中に [SHIFT] ボタンを押しながら [PAD 5-8] ボタンを押す
ボタンを押した位置からループ再生を開始します。

パフォーマンスパッドの操作

DJソフトウェアと組み合わせて使用するとき、本機のパフォーマンスパッドを使ってさまざまな機能を使用できます。

パフォーマンスパッドセクション



1. PAD 5-8 ボタン

パフォーマンスパッド1-4と5-8を切替えます。

2. MODE ボタン

本ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド1-4を押すことで、パッドモードを切替えます。

操作と表示	パッド 1	パッド 2	パッド 3	パッド 4
1 回押す	Hot Cue	Roll	Auto Loop	Sampler
2 回押す	Gate Cue	Cue Loop	Saved Loop	Scratch Bank
[SHIFT] ボタン +1 回押す	Pitch Play	Slicer Loop	Saved Flip	Transport

パフォーマンスパッドの操作

操作と表示	パッド 1	パッド 2	パッド 3	パッド 4
[SHIFT] ボタン +2 回押す	ユーザーモード 1	ユーザーモード 2	ユーザーモード 3	ユーザーモード 4

3. パフォーマンスパッド
4. SHIFT ボタン

Serato DJ Pro

[MODE] ボタンとパフォーマンスパッドを組み合わせ、それぞれの機能を切替えます。

Hot Cue モード

パフォーマンスパッドを押すと、ホットキューポイントを瞬時に呼び出し、再生を開始します。

- 設定できるホットキューは、1トラックにつき8個までです。

1 [MODE] ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド 1 を押す

Hot Cue モードに切替わります。

2 再生中または一時停止中に、ホットキューポイントを設定したい位置でいずれかのパフォーマンスパッドを押す

ホットキューポイントが設定されます。

- ホットキューは、以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられます。

PAD5-8 ボタン消灯 :	ホット キュー 1	ホット キュー 2	ホット キュー 3	ホット キュー 4
PAD5-8 ボタン点灯 :	ホット キュー 5	ホット キュー 6	ホット キュー 7	ホット キュー 8

3 ホットキューポイントが設定されているいずれかのパフォーマンスパッドを押す

ホットキューポイントから再生を開始します。

パフォーマンスパッドの操作

- **[SHIFT]** ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、設定されているホットキューポイントを削除します。

Roll モード

パフォーマンスパッドを押している間、パフォーマンスパッドに割り当てられている拍数のループロール再生を行います。

1 **[MODE]** ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド2を押す

Roll モードに切替わります。

例：1/8 から16拍を設定した場合、各パフォーマンスパッドには以下のように拍数が割り当てられます。

PAD5-8 ボタン消灯：	1/8 拍	1/4 拍	1/2 拍	1 拍
PAD5-8 ボタン点灯：	2 拍	4 拍	8 拍	16 拍

Serato DJ Proの画面には、設定されている拍数が表示されます。



2 ループ再生したい拍数が設定されているパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドを押している間、設定されている拍数でループロール再生を行います。

- ループロール再生中は、バックグラウンドで元のリズムを保ったまま通常の再生を続けます。
- パフォーマンスパッドを離すとループロール再生が解除され、解除するまでに経過した位置から通常の再生を開始します。
- Serato DJ Proの設定画面で、「Beat Jumpの操作ボタンを表示する」を選択すると、PAD5-8ボタンが点灯中、ビートジャンプ機能进行操作します。

Auto Loop モード

パフォーマンスパッドを押すと、パフォーマンスパッドに割り当てられている拍数のループが設定され、パフォーマンスパッドを離してもループ再生を続けます。

1 [MODE] ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド3を押す

Auto Loop モードに切替わります。

2 再生中にパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに割り当てられてる拍数のループ再生を開始します。

Serato DJ Pro の画面には、設定されている拍数が表示されます。

例：1/8 から16拍を設定した場合、各パフォーマンスパッドには以下のように拍数が割り当てられます。

PAD5-8 ボタン消灯：	2 拍	4 拍	8 拍	16 拍
PAD5-8 ボタン点灯：	1/8 拍	1/4 拍	1/2 拍	1 拍

- もう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループ再生を解除します。

Sampler モード

パフォーマンスパッドを使って、サンプラーのサンプラスロットにロードされたトラックの再生を開始します。

1 Serato DJ Pro の画面で、[SAMPLER] パネルを表示する

2 本機の [MODE] ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド4を押す

Sampler モードに切替わります。

Serato DJ Pro 画面のサンプラーパネルを ON にすると、4 つ（A、B、C、D）のバンクが切替えられます。

- それぞれのバンクには8つのスロットがあります。

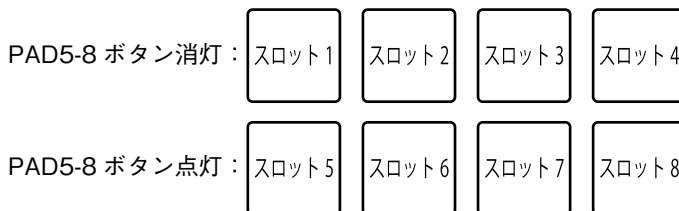
3 Serato DJ Proの画面で、トラックを[SAMPLER]パネルの各スロットにドラッグアンドドロップしてロードする

サンプラーの設定とロードしたトラックが保存されます。

4 再生したいスロット（トラック）が設定されているパフォーマンスパッドを押す

スロット音声の再生を開始します。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。



- Serato DJ Proのサンプラーのモードによって再生方法が異なります。詳細については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください（5 ページ）。
- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、スロット音声の再生を停止します。

Gate Cue モード

ホットキューを、ゲート動作で再生できます。

1 [MODE] ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド 1 を 2 回続けて押す

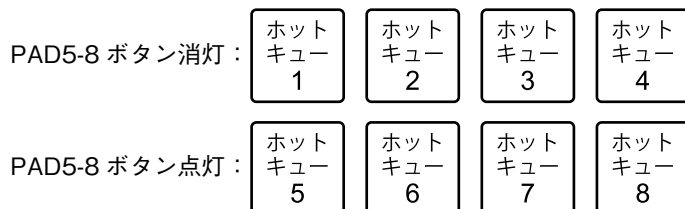
Gate Cue モードに切替わります。

2 再生したいホットキューが設定されているパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドを押している間、ホットキューの音声を再生します。

- ホットキューは、以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられます。

パフォーマンスパッドの操作



- パフォーマンスパッドを離すと音をミュートします。もう一度パフォーマンスパッドを押すと、ホットキューの先頭から再生を開始します。
- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、ホットキューポイントから再生を開始し、パフォーマンスパッドを離しても音はミュートされません。

Cue Loop モード

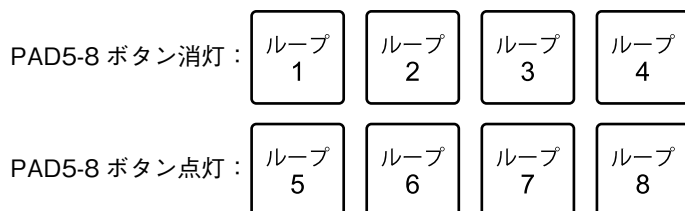
1 [MODE] ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド 2 を 2 回続けて押す

Cue Loop モードに切替わります。

2 再生中に、ループインポイントを設定したい位置でパフォーマンスパッドを押す

ホットキュースロットにループインポイントを設定し、ループ再生を開始します。

- ループインポイントは、以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられます。



- ループの長さは、Auto Loop の拍数設定が適用されます。
 - キューループでは、ホットキューポイントがループインポイントとして利用されます。ホットキューポイントが設定されているパフォーマンスパッドを押すと、設定されているホットキューポイントからループ再生を開始します。
 - [SHIFT] ボタンを押しながらもう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループインポイントに戻って再生を開始します。
- もう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループ再生を解除します。

Saved Loop モード

Serato DJ Proのループスロットにループを保存したり、保存したループを呼び出します。

- 1 **[MODE]** ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド3を2回続けて押す

Saved Loop モードに切替わります。

- 2 ループ再生中に、いずれかのパフォーマンスパッドを押す

Serato DJ Proのループスロットにループが割り当てられます。



- 3 **[SHIFT]** ボタンを押しながら、ループが設定されているいずれかのパフォーマンスパッドを押す

ループの先頭から再生を開始します。

- もう一度同じパフォーマンスパッドを押すと、ループ再生が解除されます。

Scratch Bank モード

スクラッチバンクの音声をデッキにロードして使用します。

- 1 Serato DJ Proの画面で、**[SCRATCH BANK]** パネルを表示する
- 2 本機の **[MODE]** ボタンを押しながら、パフォーマンスパッド4を2回続けて押す

Scratch Bank モードに切替わります。

3 ロードしたいスクラッチバンクが設定されているスロットのパフォーマンスパッドを押す

スクラッチバンクの音声ロードされます。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。



- 【SHIFT】 ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、直前にロードされていた楽曲をロードします。

Pitch Play モード

Pitch Play とは、Pitch 'n Time DJの機能です。

- Pitch Play モードを使用するには、Pitch 'n Time DJの購入とアクティベートが必要です。

1 【MODE】 ボタンと 【SHIFT】 ボタンを同時に押しながらパフォーマンスパッド1を押す

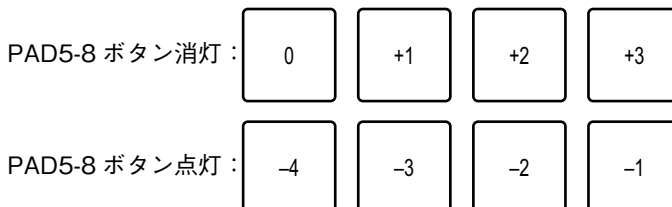
Pitch Play モードに切り替わります。

2 【SHIFT】 ボタンを押しながら、パフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドに設定されているホットキューポイントが選択されます。

3 パフォーマンスパッドを押す

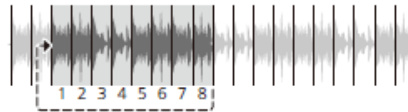
パフォーマンスパッドに割り当てられているピッチで、選択したホットキューポイントから再生を開始します。



Slicer Loop モード

指定した範囲を8分割し、分割したそれぞれの区間を各パフォーマンスパッドに割り当てます。

パフォーマンスパッドを押している間、パッドに割り当てられている区間の音声をループ再生します。



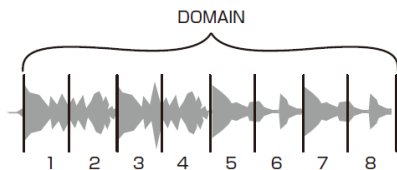
- スライサーループは、ビートグリッドが設定されていないトラックでは使用できません。ビートグリッドの設定方法については、Serato DJ Proのソフトウェアマニュアルを参照してください（5 ページ）。

1 [MODE] ボタンと [SHIFT] ボタンを同時に押しながらパフォーマンスパッド2を押す

Slicer Loop モードに切替わります。

- domain を8分割した各区間は、各パフォーマンスパッドに以下のように割り当てられます。

分割された区間1～8:



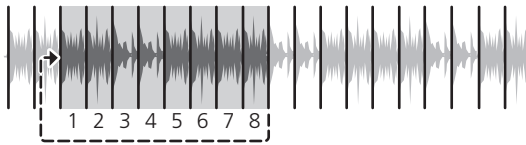
パフォーマンスパッドへの割り当て:

PAD5-8 ボタン消灯:	区間 1	区間 2	区間 3	区間 4
PAD5-8 ボタン点灯:	区間 5	区間 6	区間 7	区間 8

2 ループ再生したい区間が設定されているパフォーマンスパッドを押す

パフォーマンスパッドを押している間、ループ再生を行います。

- スライサーループ再生中は、バックグラウンドで元のリズムを保ったまま通常の再生を続けます。
- パフォーマンスパッドを離すとスライサーループ再生が解除され、解除するまでに経過した位置から通常の再生を開始します。
- 再生位置がdomainの最後まで進むと、先頭（区間1）に戻ります。



Saved Flip モード

Serato Flip は、ホットキュー操作などのシーケンスを記録したり、呼び出したりする機能です。

本機のパフォーマンスパッドを使って、Flip を保存したり、再生できます。

- Saved Flip モードを使用するには、Serato Flip の購入とアクティベートが必要です。

❖ Flip をスロットへ保存する

1 Serato DJ Pro を使って、Flip を作成する

- Flip の作成方法については、Serato DJ Pro のソフトウェアマニュアルを参照してください（5 ページ）。

2 [MODE] ボタンと [SHIFT] ボタンを同時に押しながらパフォーマンスパッド3を押す

Saved Flip モードに切替わります。

3 Flip を保存したいスロットが設定されているパフォーマンスパッドを押す

Flip がスロットに保存されます。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

PAD5-8 ボタン消灯：	スロット1	スロット2	スロット3	スロット4
PAD5-8 ボタン点灯：	スロット5	スロット6	スロット7	スロット8

- スロットに空きがないときは、Flip を保存できません。Serato DJ Pro のスロット画面で、スロットに設定されている Flip を削除してください。

❖ Flip を呼び出して再生する

1 [MODE] ボタンと [SHIFT] ボタンを同時に押しながらパフォーマンスパッド3を押す

Saved Flip モードに切替わります。

2 再生したいスロット (Flip) が設定されているパフォーマンスパッドを押す

Flip を呼び出し、先頭から再生を開始します。

- 各スロットは以下のようにパフォーマンスパッドに割り当てられています。

PAD5-8 ボタン消灯：	スロット1	スロット2	スロット3	スロット4
PAD5-8 ボタン点灯：	スロット5	スロット6	スロット7	スロット8

- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、Flip を呼び出しますが、先頭へは移動しません。トラックの再生位置がFlipの先頭に達すると、Flipの再生が開始されます。
- Flip再生中にパフォーマンスパッドを押すと、再生中のFlipの先頭へ移動します。
- [SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッドを押すと、Flipの再生を終了して通常の再生に戻ります。

Transport モード

ターンテーブルやマルチプレーヤーを使用せずに、パフォーマンスパッドを使ってトラックをコントロールします。

トランスポートモードでは、パフォーマンスパッドに以下の機能が割り当てられています。

PAD5-8 ボタン消灯：	ピッチベンド (-)	ピッチベンド (+)	ピッチナッジ (-)	ピッチナッジ (+)
PAD5-8 ボタン点灯：	キーロック	シンク	テンブ キュー	再生/停止

- トランスポートモードを使用する場合は、デッキの再生モードを [INT] に設定してください。

1 [MODE] ボタンと [SHIFT] ボタンを同時に押しながらパフォーマンスパッド4を押す

Transportモードに切替わります。

2 パフォーマンスパッドを押す

- **1 / 2** : 一時的にピッチを調整します。
- **3 / 4** : 永続的にトラックをナッジしてピッチを調整します。
[SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッド3または4を押すと、キーがリセットされます。
- **5** : キーロック機能のオン／オフを切替えます。
キーロック機能がオンのとき、トラックのテンポを変更しても音程は変わりません。音声をデジタル加工するため音質が悪くなります。
[SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッド5を押すと、Serato DVSの再生モードがインターナルモードとレラティブモードで切替わります。
- **6** : シンク機能をオンします。
Serato DVSの再生モードがレラティブモードのときは、複数のデッキのトラックとテンポ（ピッチ）を自動で合わせます。
Serato DVSの再生モードがインターナルモードのときは、複数のデッキのトラックとテンポ、ビートグリッドを自動で合わせます。
Serato DVSの再生モードがアブソリュートモードのときは、シンク機能は使用できません。
[SHIFT] ボタンを押しながらパフォーマンスパッド6を押すと、シンク機能を解除します。
- **7** : テンポラリーキューポイントを設定、呼び出し、再生します。
一時停止中に押すとテンポラリーキューポイントを設定します。
再生中に押すとテンポラリーキューポイントに戻り、一時停止します（バックキュー）。
テンポラリーキューポイントに戻ったあとに押すと、ボタンを押し続けている間再生を続けます（キューポイントサンプラー）。キューポイントサンプラー中にパフォーマンスパッド8を押すと、パフォーマンスパッドを離してもそのまま続けて再生します。
[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、トラックリストの1つ前のトラックをロードします（プレビアストラック）。現在の再生位置がトラックの先頭でないときは、トラックの先頭に戻ります。
- **8** : トラックを再生／一時停止します。
[SHIFT] ボタンを押しながら押すと、テンポラリーキューポイントに戻って再生を続けます（スタッター）。

ユーザーモード

DJソフトウェアのMIDIアサインモードを使って、本機のパフォーマンスパッドにお好みのDJソフトウェア機能をアサインできます。

- DJソフトウェアのMIDIアサインモードについては、DJソフトウェアの取扱説明書を参照してください。

ユーザーモードを使う

ユーザーモードは4つあり、各ユーザーモードで8個のパッドにお好みの機能をアサインできます。

ここでは、Serato DJ Proと組み合わせてユーザーモードを使用する場合を説明します。

1 [MODE] ボタンと [SHIFT] ボタンを同時に押しながらパフォーマンスパッド1、2、3、4を2回続けて押す

- パフォーマンスパッド1:ユーザーモード1に切替わります。
- パフォーマンスパッド2:ユーザーモード2に切替わります。
- パフォーマンスパッド3:ユーザーモード3に切替わります。
- パフォーマンスパッド4:ユーザーモード4に切替わります。

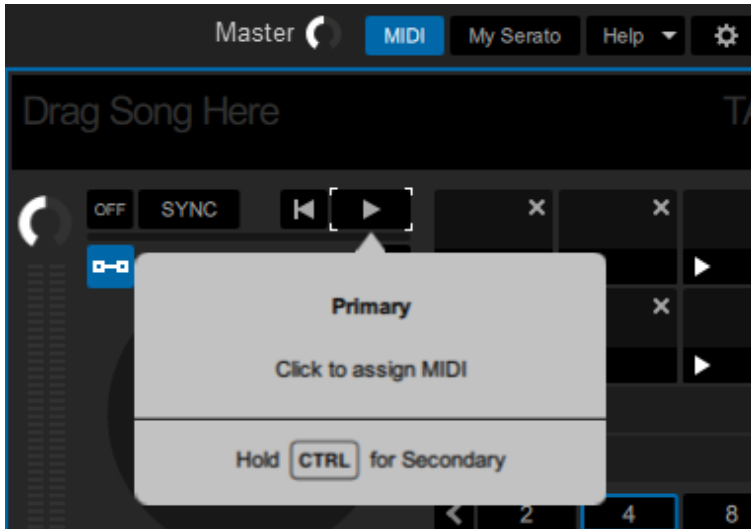
2 Serato DJ Pro画面で、[MIDI] をクリックする

Serato DJ ProがMIDIアサインモードに切替わります。



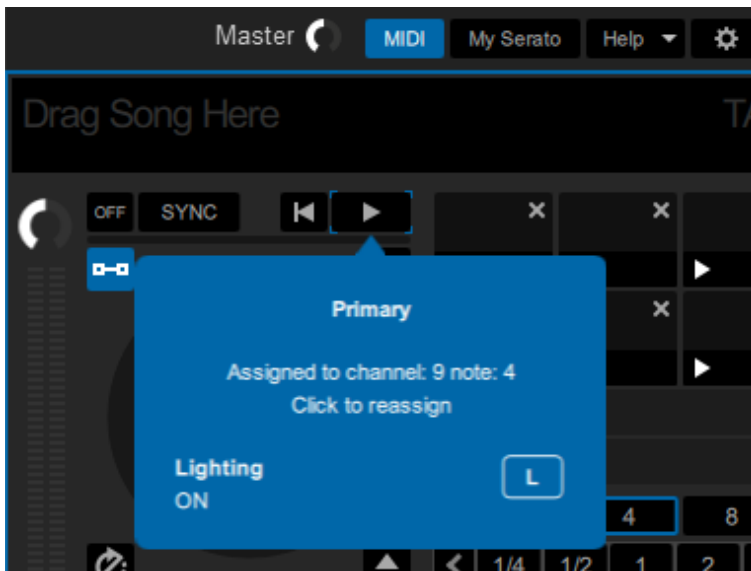
3 本機のパフォーマンスパッドにアサインする機能をクリックする

例：[▶] (PLAY/PAUSE) ボタンをアサインするとき



4 選択した機能をアサインするパフォーマンスパッドを押す

アサインに成功すると、アサイン完了メッセージが表示されます。



- [MIDI] をクリックすると、MIDIアサインモードを終了します。
- 設定完了後に本機をユーザーモードに切替えると、パフォーマンスパッドにアサインされた Serato DJ Pro の機能を使用できます。

フェーダースタート

フェーダーノブの操作で、再生を開始できます。

フェーダースタートを使う

フェーダースタート機能を使うには、あらかじめ設定ユーティリティの **[PREFERENCE]** タブで、**[フェーダースタートの動作オプション]** のチェックボックスにチェックを入れてください。

🔗 「各種設定を変更する」 (17 ページ)

チャンネルフェーダースタートを使う

1 キューを設定する

- キューポイントの設定方法は、DJソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- 一時停止中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを奥側から一番手前の位置に合わせると、キューを設定できます。

2 **[SHIFT]** ボタンを押しながら、チャンネルフェーダーを一番手前の位置から奥側に動かす

キューポイントからトラックの再生を開始します。

- 再生中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらチャンネルフェーダーを一番手前の位置に戻すと、キューポイントに瞬時に戻り、一時停止します (バックキュー)。
- キューが設定されていないときは、トラックの先頭から再生を開始します。
- 設定ユーティリティの **[PREFERENCE]** タブで、チャンネルフェーダースタートの動作開始と同時にシンク機能をオンにする設定 (Serato DJ Pro 使用時のみ対象) に変更することもできます (17 ページ)。

クロスフェーダースタートを使う

1 キューを設定する

- キューポイントの設定方法は、DJソフトウェアの取扱説明書を参照してください。
- 一時停止中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらクロスフェーダーを左端または右端に合わせると、キューを設定できます。

2 クロスフェーダーを左端または右端の位置に合わせる

- フェーダースタートさせるチャンネルとは反対側の端に合わせます。

3 **[SHIFT]** ボタンを押しながら、クロスフェーダーを左端または右端から逆側に動かす

キューポイントからトラックの再生を開始します。

- 再生中に **[SHIFT]** ボタンを押しながらクロスフェーダーを元の位置に戻すと、キューポイントに瞬時に戻り、一時停止します（バックキュー）。
- キューが設定されていないときは、トラックの先頭から再生を始めます。

CROSSFADER HOT CUE

フェーダーノブの操作で、再生を開始できます。

CROSSFADER HOT CUE を使う

1 [SHIFT] ボタンを押しながら [FX1/CUT4] ボタンを押す

- この操作によって、本機能のON、OFFが切替わります。
- [SHIFT] ボタンを押して [FX1/CUT4] ボタンが点滅しているとき、本機能はONです。
- [SHIFT] ボタンを押して [FX1/CUT4] ボタンが消灯しているとき、本機能はOFFです。

2 ホットキューポイントを設定する (48 ページ)

3 ホットキューポイントが設定されているいずれかのパフォーマンスパッドを押す

4 クロスフェーダーを左端または右端の位置に合わせる

- CROSSFADER HOT CUE を動作させるデッキとは反対側の端に合わせます。
例：クロスフェーダーを左端から他の位置に移動させると、Deck 2 のホットキューが起動します。その逆も同様です。

5 クロスフェーダーを左端または右端から逆側に動かす

- クロスフェーダーホットキューを使用するためには、反対側のデッキにロードされているトラックにホットキューが設定されている必要があります。
- 最後にトリガーされたホットキューポイントから再生が始まります。
- 再生開始後、一定時間はホットキューポイントに再トリガーされません。
その時間は [UTILITY] モードで設定できます (65 ページ)。

設定

設定を変更する

[UTILITY] モードを起動して本機の設定を変更します。

1 [BROWSE] ノブを長押しする（1秒以上）

レベルインジケーターが [UTILITY] モード設定表示に切替わります。

2 [BROWSE] ノブを回すか、[BEAT ◀/▶] ボタンを押して設定項目を選択する

3 [BROWSE] ノブを押すか、[SHIFT] ボタンを押す

設定変更項目が決定されます。

4 [BROWSE] ノブを回すか、[BEAT ◀/▶] ボタンを押して設定値を選択する

5 [BROWSE] ノブを押すか、[SHIFT] ボタンを押して設定値を決定する

2の状態に戻ります。

- 設定値を変更しないで2の状態に戻るには、[BROWSE] ノブを長押しします（1秒以上）。

6 [BROWSE] ノブを長押しする（1秒以上）

レベルインジケーターが通常表示に切替わります。

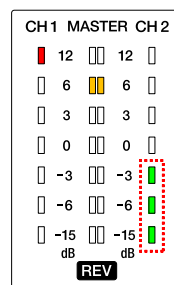
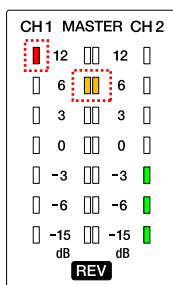
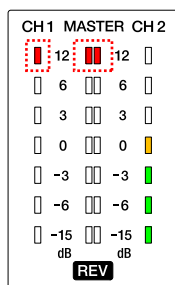
設定項目の表示例

❖ 選択肢から設定を変更するとき

UTILITY モード開始
設定項目選択中
CROSSFADER CURVE = 4

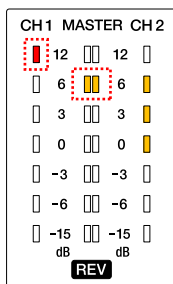
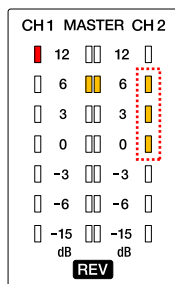
[BEAT ►] ボタンを押す
設定項目選択中
CH FADER REVERSE = OFF

[SHIFT] ボタンを押す
設定値選択中
CH FADER REVERSE = OFF



[BEAT ◀] または [BEAT ►] ボタンを押す [SHIFT] ボタンを押す
設定値変更、動作に反映
CH FADER REVERSE = ON

設定値変更保存および設定項目選択中に戻る
CH FADER REVERSE = ON



点減

❖ 数値の設定を変更するとき

UTILITY モード開始

設定項目選択中

CROSSFADER CURVE = 4

[SHIFT] ボタンを押す

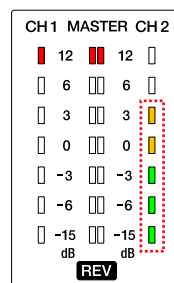
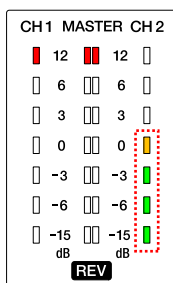
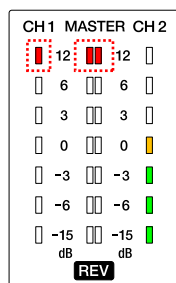
設定値選択中

CROSSFADER CURVE = 4

[BEAT ►] ボタンを押す

設定値変更、動作に反映

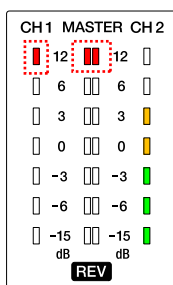
CROSSFADER CURVE = 5



[SHIFT] ボタンを押す

設定値変更保存および設定項目選択中に戻る

CROSSFADER CURVE = 5



点減

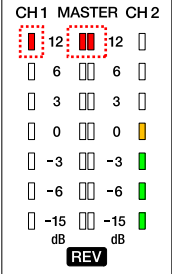
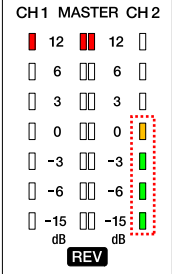
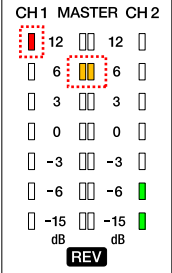
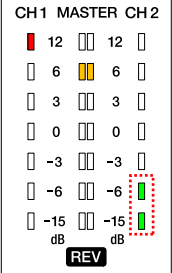
設定項目一覧

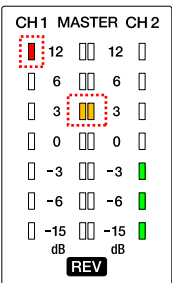
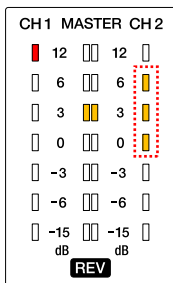
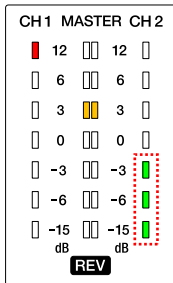
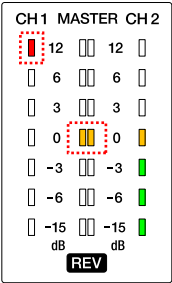
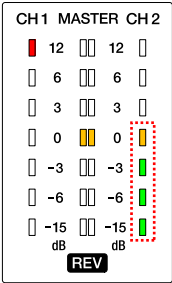
設定項目を選択しているときは[CH1]と[MASTER]が点滅、[CH2]は点灯します。

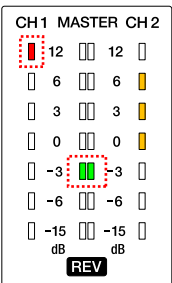
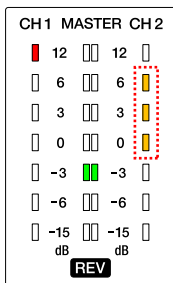
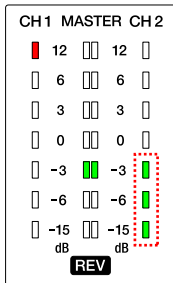
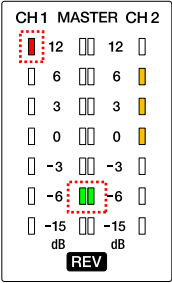
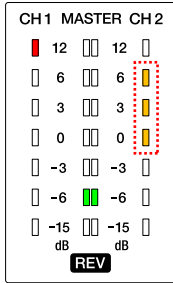
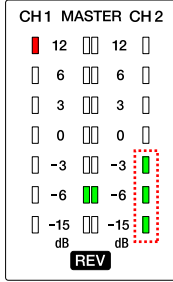
設定値を選択しているときは[CH1]と[MASTER]が点灯、[CH2]は点滅します。

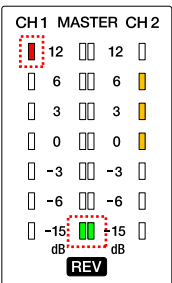
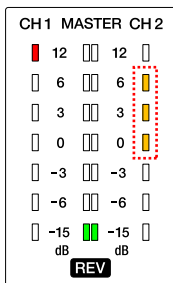
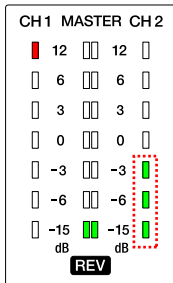
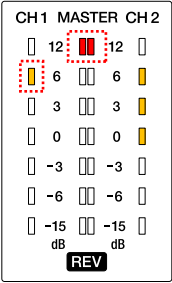
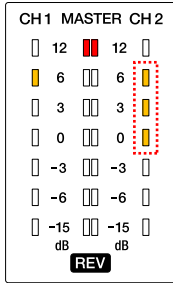
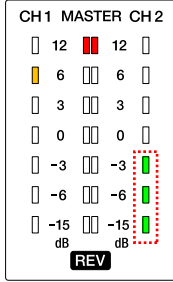
*：お買い上げ時の設定

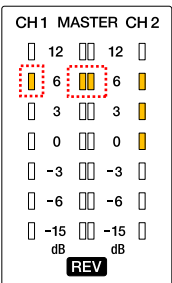
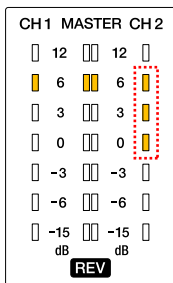
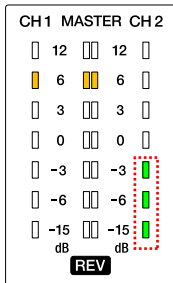
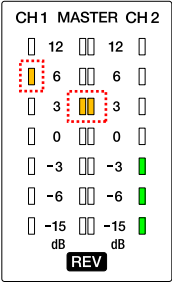
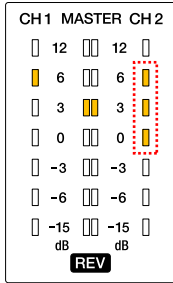
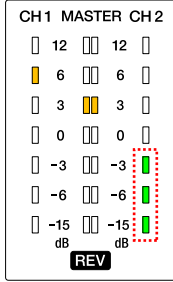
点滅

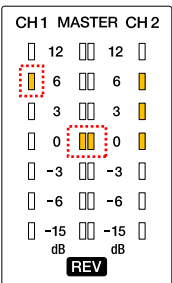
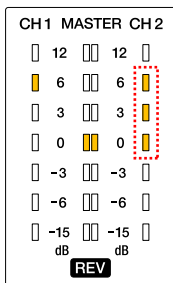
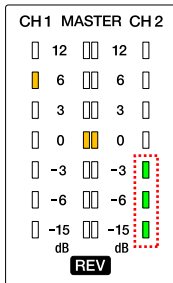
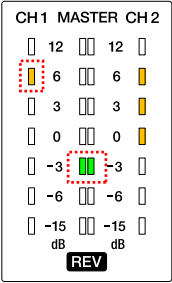
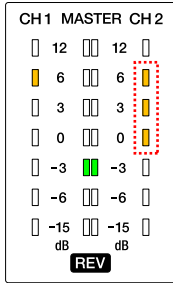
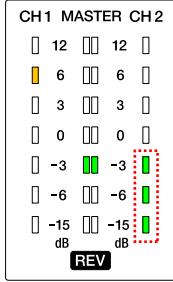
設定項目	表示するレベル インジケーター	設定値	表示するレベル インジケーター	説明
CROSSFADER CURVE 		1 ~ 7 (4*)		クロスフェーダーカーブを設定します（設定値の数と同じ分だけインジケータが表示します）。
CROSSFADER HOT CUE threshold pattern		1 ~ 4 (1*)		CROSSFADER HOT CUE が発動しない操作間隔の閾値パターンを設定します。 - 設定値 "4": 1 ビート - 設定値 "3": 1/2 ビート - 設定値 "2": 1/4 ビート - 設定値 "1": ビートなし（常時発動）

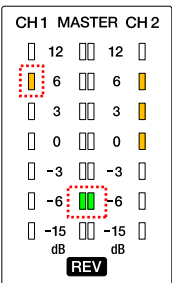
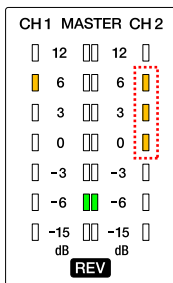
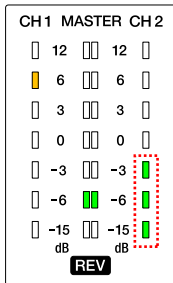
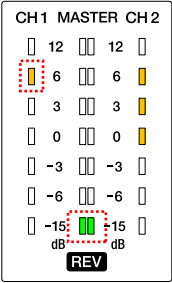
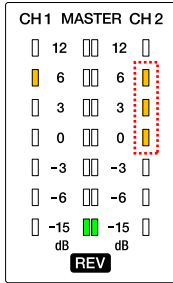
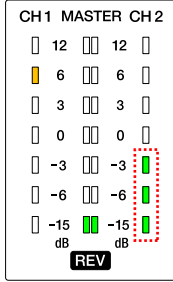
設定項目	表示するレベルインジケータ	設定値	表示するレベルインジケータ	説明
CH FADER REVERSE		ON		ON に設定すると、チャンネルフェーダーの操作方向が逆になります。
		OFF*		
CH FADER CURVE		1 ~ 7 (4*)	 急峻 ↑ 徐々に	チャンネルフェーダーカーブを設定します（設定値の数と同じ分だけインジケータが表示します）。

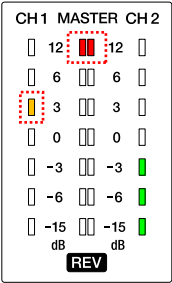
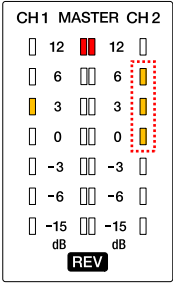
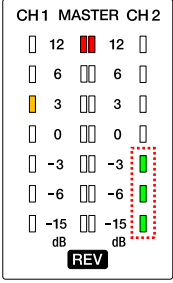
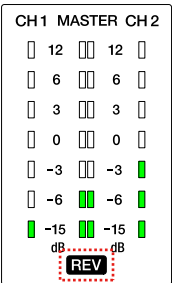
設定項目	表示するレベルインジケータ	設定値	表示するレベルインジケータ	説明
AUX INPUT LEVEL		12 dB		AUX の入力レベルを設定します。
		0 dB*		
MIC LOW CUT		ON*		マイクのローカットフィルターを設定します。
		OFF		

設定項目	表示するレベルインジケータ	設定値	表示するレベルインジケータ	説明
MIC TO BOOTH		ON*		[BOOTH/MASTER2] 端子 (BOOTH 設定時) から出力される音声にマイク音声をミックスするかどうを設定します。
		OFF		
MIC LIMITER		ON*		[MIC] 端子から入力される音声の歪みを緩和するかどうを設定します。
		OFF		

設定項目	表示するレベルインジケーター	設定値	表示するレベルインジケーター	説明
PHONES OUT		STEREO*		ヘッドホンから出力されるモニター音声の振り分け方法を設定します。
		MONO SPLIT		
BOOTH/ MASTER2 terminal setting		MASTER		[BOOTH/ MASTER2] 端子から出力される音声を設定します。
		BOOTH*		

設定項目	表示するレベルインジケータ	設定値	表示するレベルインジケータ	説明
MASTER LIMITER		ON*		[MASTER1]、 [BOOTH/ MASTER2] 端子 (MASTER 設定時) から出力する音声 の歪みを緩和する かどうかを設定し ます。
		OFF		
MASTER OUT		STEREO*		[MASTER1]、 [BOOTH/ MASTER2] 端子 (MASTER 設定時) から出力する音声 の出力方法（モノ ラル／ステレオ） を設定します。
		MONO		

設定項目	表示するレベルインジケータ	設定値	表示するレベルインジケータ	説明
BOOTH OUT		STEREO*		[BOOTH/MASTER2] 端子 (BOOTH 設定時) から出力する音声 の出力方法 (モノラル／ステレオ) を設定します。
		MONO		
PC UTILITY		ON*		PC 接続時に、自動的に設定ユーティリティを起動するかどうか設定します (13 ページ)。
		OFF		

設定項目	表示するレベルインジケータ	設定値	表示するレベルインジケータ	説明
FACTORY RESET		RESET		[RESET] を実行すると、初期設定に戻します。
		CANCEL*		
VERSION	(ver. 1.23 の例) 	1.00 ~ 9.99	次項を参照	ファームウェアバージョンを表示します（読み出し専用）。

VERSIONの値は以下のように表示します。

ファームウェアバージョンが"x.yz"のとき、

[CH1] : xの値を表します。

[MASTER] : yの値を表します。

[CH2] : zの値を表します。

レベル インジケータ	値									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
+12 :	—	—	—	—	—	—	—	点灯	点灯	点灯
+6 :	—	—	—	—	—	—	点灯	点灯	点灯	点灯
+3 :	—	—	—	—	—	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯
0 :	—	—	—	—	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯
-3 :	—	—	—	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯
-6 :	—	—	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点滅
-15 :	—	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点灯	点滅	点滅

スペック

仕様

一般

本体質量	3.4 kg
最大外形寸法	(W x D x H) 245 × 363.5 × 107.9 mm
許容動作温度	+ 5 °C ~ + 35 °C
許容動作湿度	5 % ~ 85 % (結露のないこと)

オーディオ部

サンプリングレート	48 kHz
D/A コンバーター	24bit
A/D コンバーター	24bit

周波数特性

USB, LINE, MIC, AUX	20 Hz ~ 20 kHz
---------------------------	----------------

S/N 比 (定格出力時、A-WEIGHTED)

USB	108 dB
LINE	94 dB
PHONO	82 dB
MIC	75 dB
AUX	94 dB

全高調波歪率 (20 Hz ~ 20 kHz BW)

USB	0.003 %
LINE	0.007 %

基準入力レベル / 入力インピーダンス

LINE	-12 dBu / 47 kΩ
PHONO	-52 dBu / 47 kΩ
MIC	-57 dBu / 3.3 kΩ
AUX	-12 dBu / 47 kΩ

最大入力レベル

PHONO	-17.8 dBu
LINE	+11 dBu
MIC	+2.3 dBu
AUX	+11 dBu (0 dB) / -1 dBu (12 dB)

基準出力レベル / 負荷インピーダンス / 出力インピーダンス

MASTER1	-2 dBu / 10 kΩ / 430 Ω 以下
BOOTH/MASTER2	-6 dBu / 10 kΩ / 400 Ω 以下
PHONES	+3 dBu / 32 Ω / 10 Ω 以下

定格出力レベル / 負荷インピーダンス

MASTER1	+14 dBu / 10 kΩ
BOOTH/MASTER2	+10 dBu / 10 kΩ

クロストーク

LINE	82 dB
------------	-------

チャンネルイコライザー特性

HI.....	-∞ dB ~ +6 dB (20 kHz)
MID	-∞ dB ~ +6 dB (1 kHz)
LOW	-∞ dB ~ +6 dB (20 Hz)

入力 / 出力端子

LINE / PHONO 入力端子

RCA ピンジャック	2 系統
------------------	------

MIC 入力端子 (XLR / TRS)

XLR コネクター & 1/4" TRS ジャック	1 系統
---------------------------------	------

AUX 入力端子

RCA ピンジャック	1 系統
------------------	------

MASTER1 出力端子

XLR コネクター	1 系統
-----------------	------

BOOTH/MASTER2 出力端子

RCA ピンジャック	1 系統
------------------	------

PHONES 出力端子

1/4" ステレオジャック	1 系統
3.5 mm ステレオミニジャック	1 系統

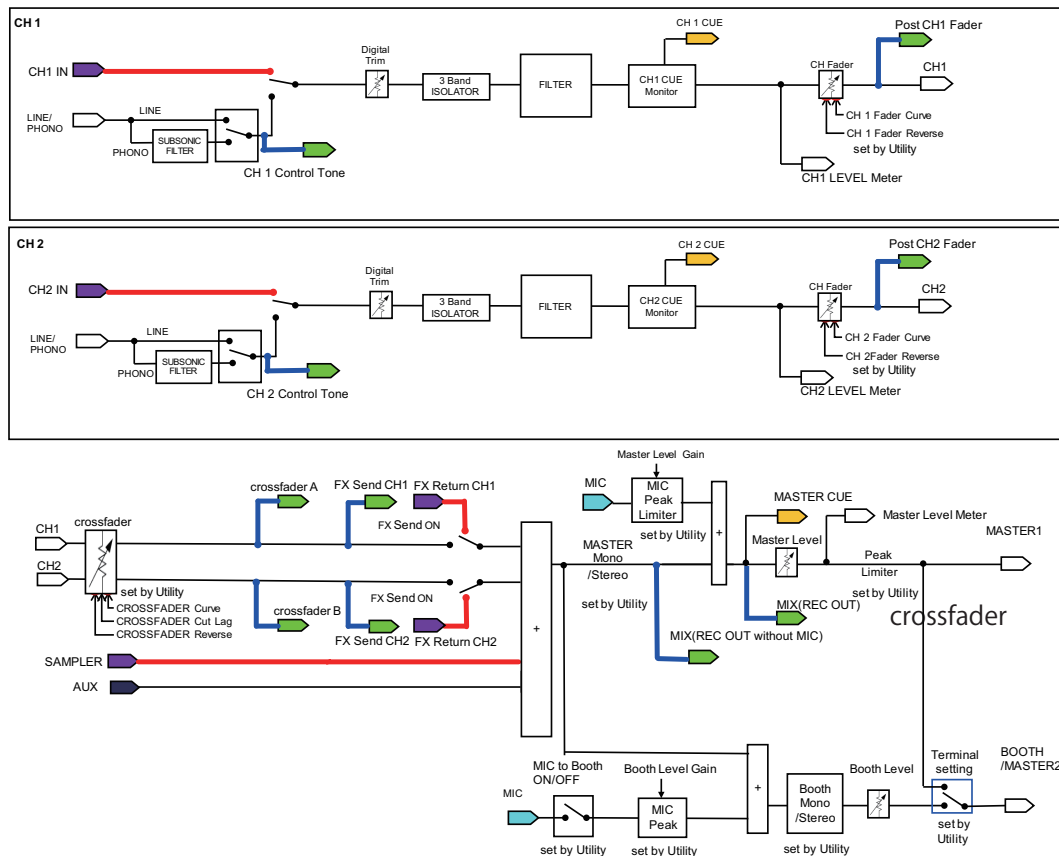
USB 端子

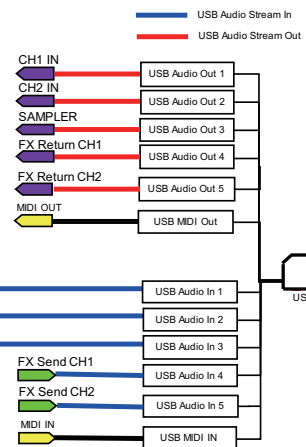
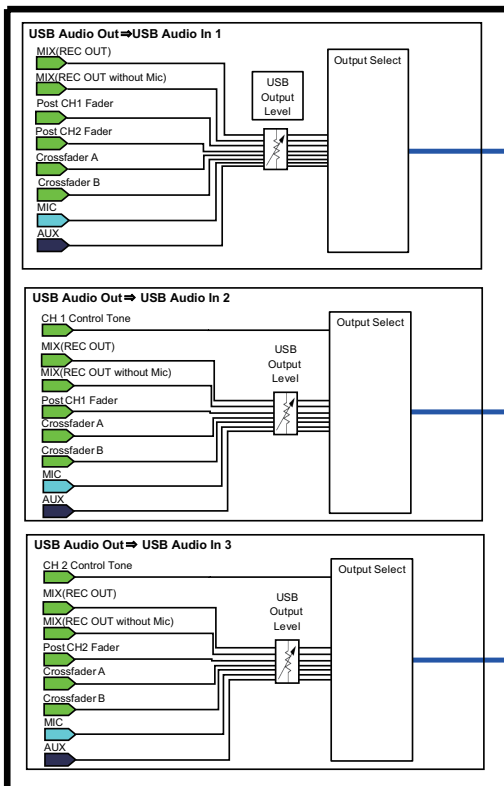
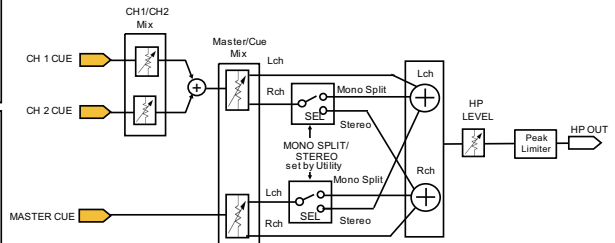
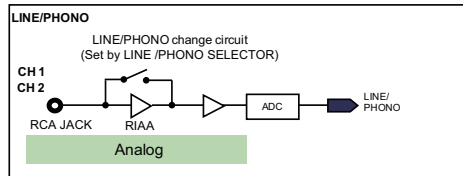
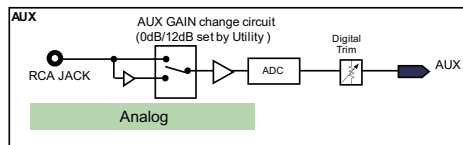
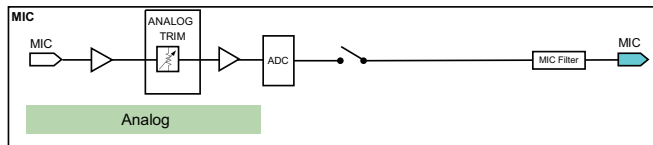
Type-C	2 系統
--------------	------

電源供給 5 V / 500 mA

本書で説明しているソフトウェアの画面と仕様、およびハードウェアの外観と仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム





その他

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、下記Pioneer DJ サポートページの「よくある質問 (FAQ)」または「FAQ&DJ ソフトウェア等のサポート情報」から「DJM-S5」の「よくある質問」を確認してください。

pioneerdj.com/support/

- 本機と接続している機器も確認してください。
- 電源を入れなおすと正常に動作することがあります。

それでも正常に動作しないときは、「使用上のご注意」をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

商標および登録商標について

- MacおよびmacOSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ASIOは、Steinberg Media Technologies GmbH.の商標または登録商標です。
- Serato DJ Proは、Serato Limited社の登録商標です。

その他記載されている商品名、技術名および会社名などは、各社の商標または登録商標です。

著作権

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- CDなどから録音される音楽は、各国の著作権法ならびに国際条約で保護されています。また、録音した者自身が、それを合法的に使用するうえでのすべての責任を負います。
- インターネットなどからダウンロードされる音楽を取り扱う際は、ダウンロードした者自身が、ダウンロードサイトとの契約に則ってそれを使用するうえでのすべての責任を負います。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

© 2021 AlphaTheta 株式会社 禁無断転載
<DRI1775-A>